

第 1 章 三島市の概要

第1章 三島市の概要

第1節 自然的・地理的環境

(1) 位置

三島市は静岡県の東部、伊豆半島の付け根に位置しています。

市庁舎の位置は、北緯 35 度 6 分、東経 138 度 55 分で、周囲を見渡せば北西部に富士山、^{あしたかやま}愛鷹山を仰ぎ、西から南にかけては静浦山塊から^{あまぎさん}天城山を遠望することができます。一方、東部の箱根西麓では南西方向に向かって複数の尾根が延びており、本市はこの箱根西麓及び上記の山々の間に広がる平野部に位置します。また、周辺自治体としては、北は裾野市、西は長泉町、清水町、南は函南町、沼津市、東は神奈川県箱根町と境を接しています。

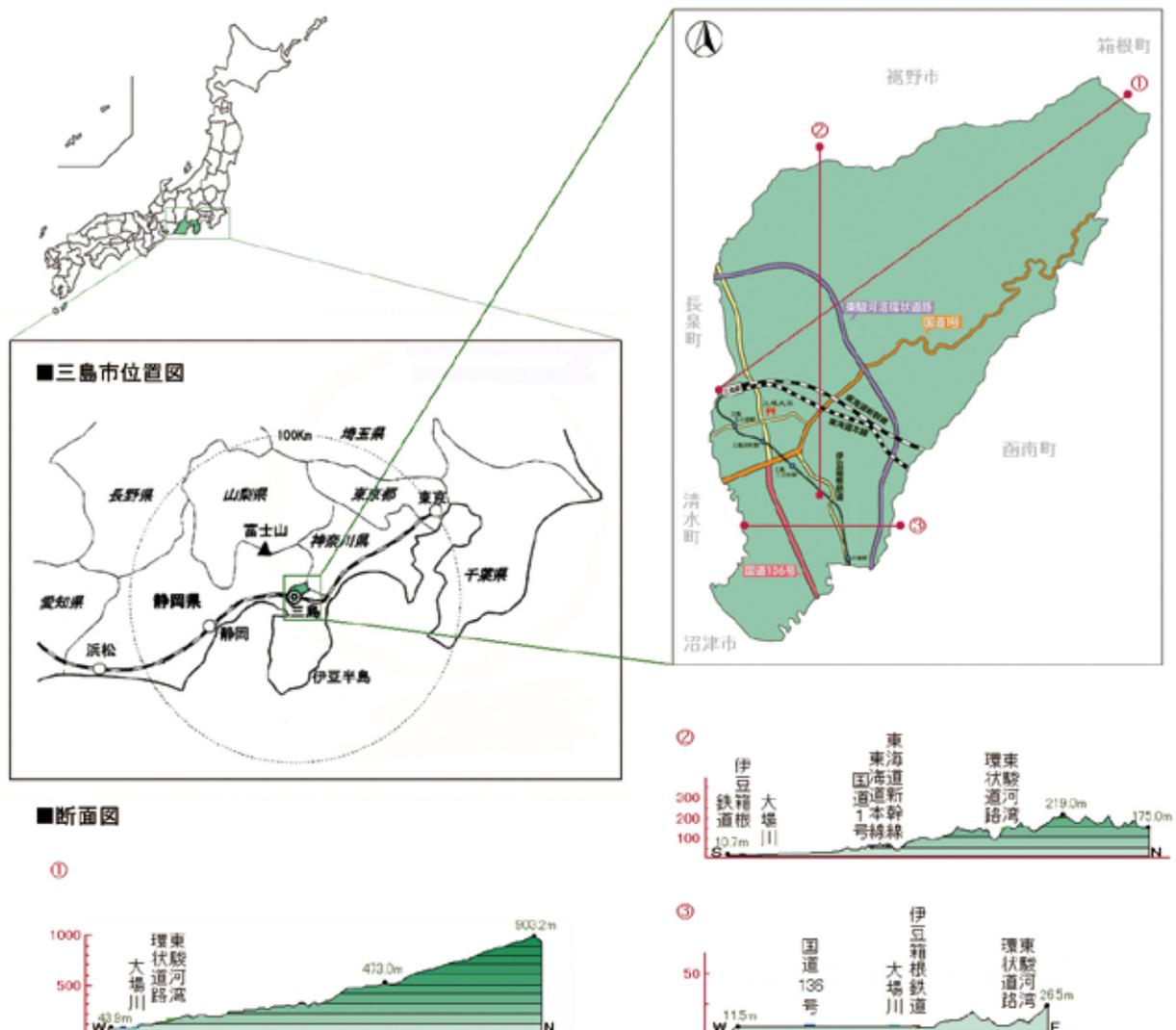


図 1-1 三島市の位置 (1)



図 1-2 三島市の位置 (2)

(2) 地形・地質

本市は、東西 11.1km、南北 13.2kmで、総面積 62.0km²の規模を有し、地形と地質的特質により三つに区分することができます。

第1は、市域の3分の2を占める比較的緩い傾斜地である箱根西麓地域で、玄武岩・安山岩質溶岩の上に箱根山や富士山起源の火山灰層などが厚く堆積しています。

第2は、標高約 24 m以上の三島市街地及びその北側の地域です。市街地の北側は富士山起源の玄武岩質溶岩(三島溶岩流)が露出し、三島市街地は富士山起源の土石流堆積物(御殿場泥流層)に広く覆われています。

第3は、東西に走る国道1号以南に広がる広大な沖積平野で、伊豆の国市や函南町の平野部も含めて田方平野と呼称されています。

また、最高標高は海ノ平の海拔 941.5 mで、最低標高は長伏の海拔 6.0 mです。

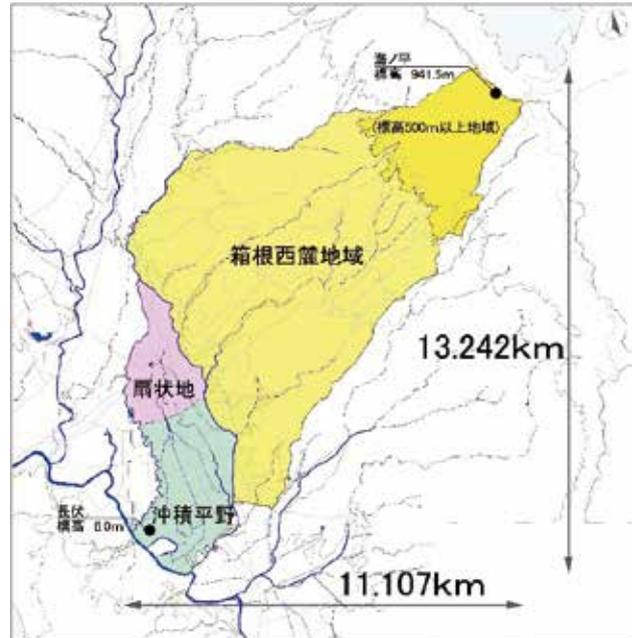


図 1-3 三島市の地形・地質による区分

(3) 身近な自然環境

市内には自然環境に親しみ、ふれあえる場所がたくさんあります。「世界かんがい施設遺産(国際かんがい排水委員会)」「世界水遺産(世界水会議)」「平成の名水百選(環境省)」に選ばれた源兵衛川げんべえがわや「静岡県のみずべ100選」に選ばれた楽寿園小浜池こはまいけ、桜川、蓮沼川(宮さんの川)等には、市内外から多くの方が訪れています。また、令和2年(2020)8月に拡張整備された境川きよづみ・清住緑地では、豊かな自然環境の中で貴重な生物を観察することができます。

山田川自然の里は、市民農園をはじめ、農業体験や散策ができる市民憩いの場として活用されています。また、国立遺伝学研究所前や三嶋大社等の桜の名所、文教町イチョウ並木の黄葉等、植物観賞の場所も多く分布しています。

平成30年(2018)4月、「伊豆半島ジオパーク」がユネスコ世界ジオパークに認定されました。本市にも大地(ジオ)が育んだ多くの魅力あるジオポイントがあり、三島溶岩流や湧水群を見ることができます。

(4) 気候

本市の気候は、平成3年～令和2年(1991～2020)の30年間で見ると、年間平均気温は約16℃と比較的温暖です。夏は温暖多雨で、冬は雨が少なく乾燥するという太平洋側の気候の特色を有するものの、海に面している近隣の市町に比べ、夏は気温が高く、冬は少し冷え込みます。年間平均降水量は1,868mm、年間日照時間は2,000時間に及び、市民の暮らしに快適さをもたらすとともに、多くの農作物を育てています。

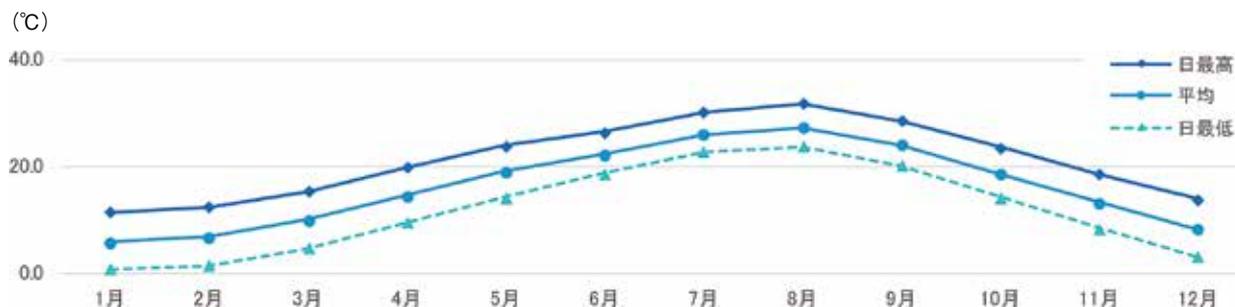


図 1-4 気温グラフ 【資料：気象庁 HP 平年値 (年・月ごとの値)】

(5) 河川・水資源

市内の主要な河川としては大場川とその支川(沢地川、山田川、夏梅木川、函南観音川)、境川があり、これらは全て一級河川である狩野川水系に属しています。大場川は、箱根山に源を發して山麓を流れ、市域を南北に縦断し、各支川を集めて狩野川に流入します。市街地には富士山の湧水を源とする源兵衛川、桜川、御殿川、蓮沼川(宮さんの川)が流れています。その他、狩野川の旧河道にあたる松毛川があります。

本市は、昔から「水の都・三島」と呼ばれてきました。湧水の源となる「三島湧水群」は、富士山麓に降った雨や雪が地下水となり、楽寿園小浜池や白滝公園等から湧き出しているものです。小浜池周辺はあちこちで溶岩が露頭し、農耕には不向きですが独特の優れた景観を見せています。近世までは三嶋大社別当寺である愛染院をはじめとした寺社やお堂があり、明治時代には小松宮彰仁親王の別邸が造営されました。現在は市立公園楽寿園として市民の憩いの場となっています。

小浜池などを源とする湧水河川のうち、源兵衛川や桜川は中世に用水路として開削されたもので、蓮沼川(宮さんの川)は同じく中世に建設された千貫樋によって境川を越えて駿河国の村々へつながる農業用水として利用されました。千貫樋については、戦国時代に小田原北条氏と今川氏が婚姻同盟を結んだ際に、小田原北条氏から今川氏への婿引き出物としてつくられた、という伝承があります。このように、本市では豊富な湧水を生活や産業に利用してきましたが、昭和 35 年頃(1960)から工場立地が進み、地下水の使用量が増えたことや、都市化が進展したことにより地下水・湧水が減少しています。

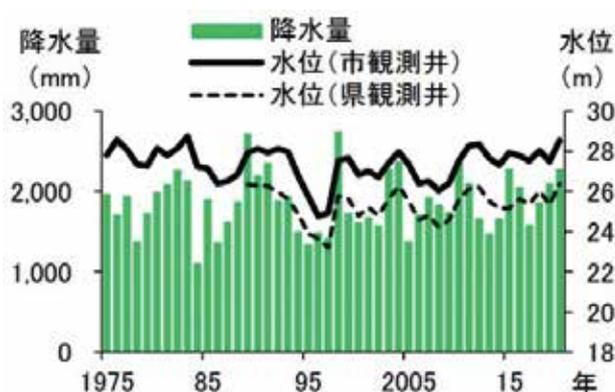


図 1-5 楽寿園井の水位と降水量の経年変化 【資料：第 3 次三島市環境基本計画】

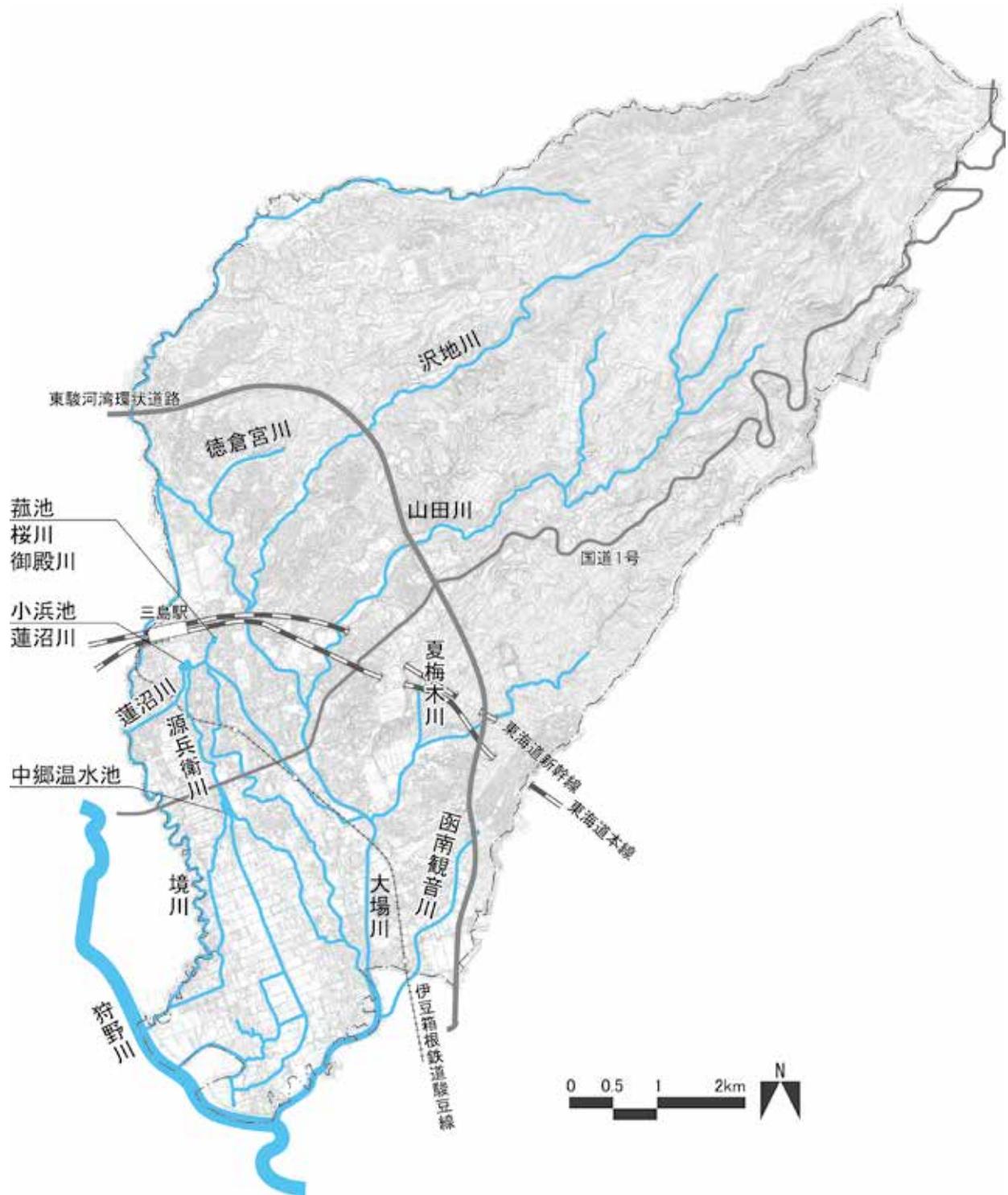


図 1-6 市内の主な河川

第2節 社会的環境

(1) 本市を構成する4つの地域

本市は三島町、北上村、錦田村、中郷村の1町3村が順次合併して現在の姿になっています。そのため、現在でも都市計画をはじめとした様々な施策がこの旧1町3村を基本とした四つの地域別に構想、実施されています。ただし、この四つの地域区分は旧1町3村の境界と一部で異なる部分があります。本計画では、他の施策でも採用されている四つの地域区分を採用します。

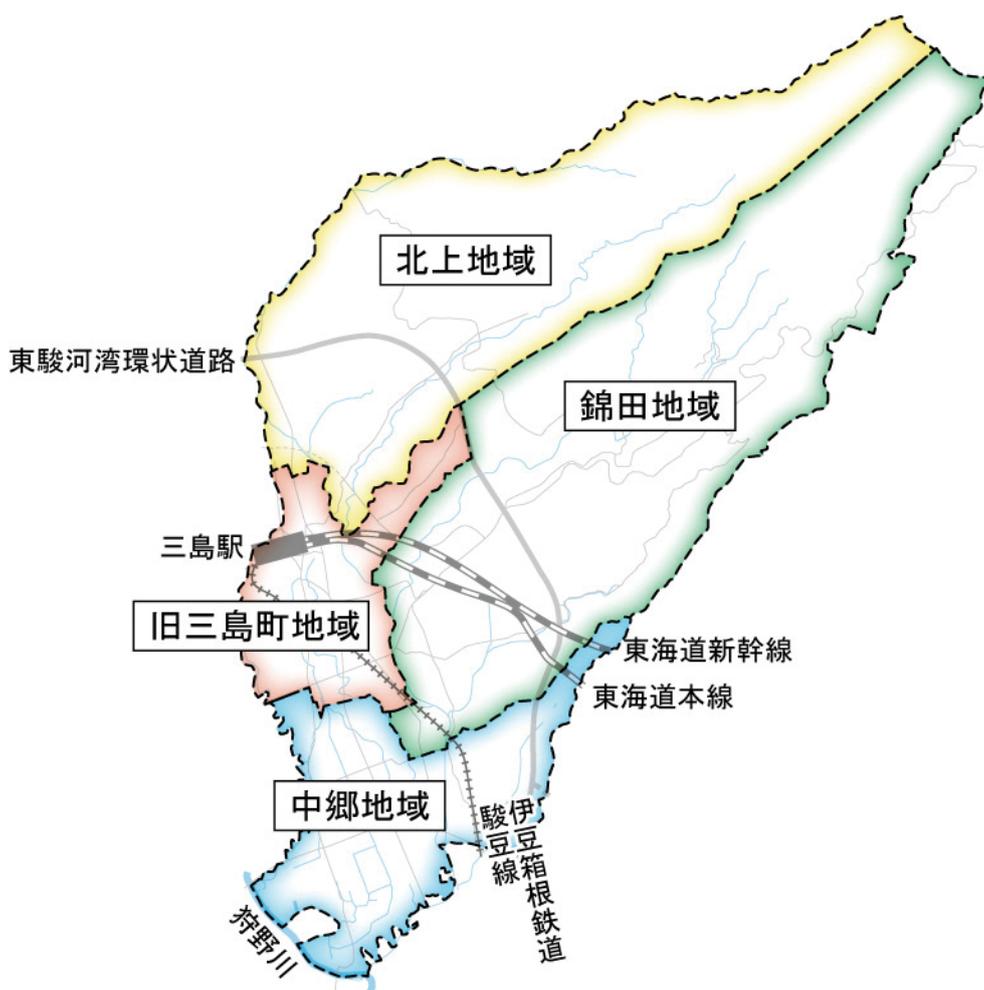


図 1-7 市内4地域

①旧三島町地域

東海道の宿場町から発展した市街地で、三島駅や大通り商店街を中心に中心市街地を形成しています。三嶋大社や楽寿園、点在する湧水や公園等、本市を代表する優れた自然、歴史、文化的資産があります。

②北上地域^{きたうえ}

箱根西麓の変化に富んだ地形で構成され、丘陵地では昭和40年(1965)代以降、大規模な開発により住宅団地が形成されています。佐野街道(甲州道)と呼ばれてきた主要地方道三島裾野線が中心市街地とこの地域を結ぶアクセス道路となっています。

③錦田地域

箱根西麓の変化に富んだ地形で構成され、丘陵地では昭和40年(1965)代以降、大規模な開発により住宅団地が形成されています。市街地から神奈川県箱根町へ向けて旧東海道箱根路に沿う形で国道1号が通っています。

④中郷地域^{なかさと}

本市の南部を構成する地域で、水田地帯が展開している中に三つの小規模な市街地があります。中心市街地からは国道136号などが南に伸びています。

(2) 人口

本市の人口は、平成17年(2005)に112,241人でピークを迎え、それ以降減少を続けており、令和6年(2024)8月末時点では105,279人となっています。この趨勢は今後も続くと考えられ、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(令和5年(2023)推計)」では、令和27年(2045)には86,876人になるとされています。



図1-8 本市の人口推移と将来推計人口

【資料:総務省「国勢調査」(~ R2)、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』(令和5年(2023)推計)(R7~)】

(3) 産業

本市の事業所数及び従業者数は、近年緩やかな減少傾向にあり、これに伴い、製造品出荷額や卸売業・小売業の年間販売額も減少しています。令和3年(2021)の卸売業・小売業の年間販売額をピーク時の平成3年(1991)と比べると、卸売業、小売業で2割減少しており、本市の経済活動は縮小傾向にあります。

しかし、テレワーク等の働き方の変化や、店頭販売からインターネット販売への移行等により、今後の経済活動の動向は大きく変化する可能性があります。



図 1-9 従業者数と事業所数の推移【出典：経済センサス】



図 1-10 製造品出荷額の推移【出典：工業統計調査 (R3 は経済センサス)】

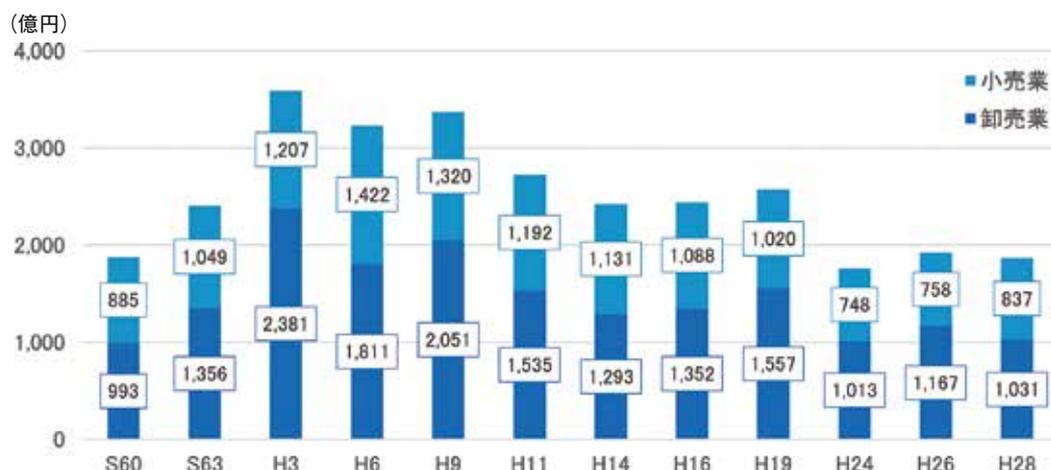


図 1-11 卸売業と小売業の年間販売額の推移【出典：商業統計調査】

(4) 観光

本市の主な観光資源には、旧東海道、箱根八里、三嶋大社等の歴史文化に関わるものや^{うなぎ}鰻料理、箱根西麓野菜、みしまコロッケ等の食の魅力があります。また、近年では東名高速道路直通的東駿河湾環状道路や国道1号笹原山中バイパスの開通により広域交通網の整備が進み、箱根西麓エリアに伊豆フルーツパークや三島スカイウォークが開業しています。また、近隣の状況としては平成25年(2013)に富士山が、平成27年(2015)に韮山反射炉が世界文化遺産に登録され、平成30年(2018)には伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定されています。

このような市内、近隣の状況により本市の観光交流客数(観光レクリエーション客数及び宿泊客数)は平成21年度(2009)には430万人でしたが、平成28年度(2016)以降は700万人超となっています。このように本市を訪れる観光客数は大きく増加しましたが、周辺市町と比較して宿泊客数が少ない、といった課題があります。

令和2年(2020)以降、コロナ禍により観光客数が大幅に減少していましたが、観光施設やイベントの再開により現在は回復傾向にあります。



図 1-12 観光交流客数の推移【出典：「静岡県観光交流の動向」(静岡県)】

(5) 土地利用

本市の土地利用の実態として、商業系土地利用は、中心市街地の他、東西に走る国道1号沿道、南北に走る国道136号と主要地方道三島裾野線沿道、大場駅周辺地区に分布しています。

住居系土地利用は、北上地域から錦田地域にかけての市街化区域縁辺部で昭和40年(1965)代から開発が進み、良好な住宅団地を形成しています。

工業系土地利用は、従来から市街地に存在する工場敷地の他、工業を集積するエリアである平成台地区(沢地工業団地)、三ツ谷工業団地、長伏・松本地区といった郊外に分布しています。

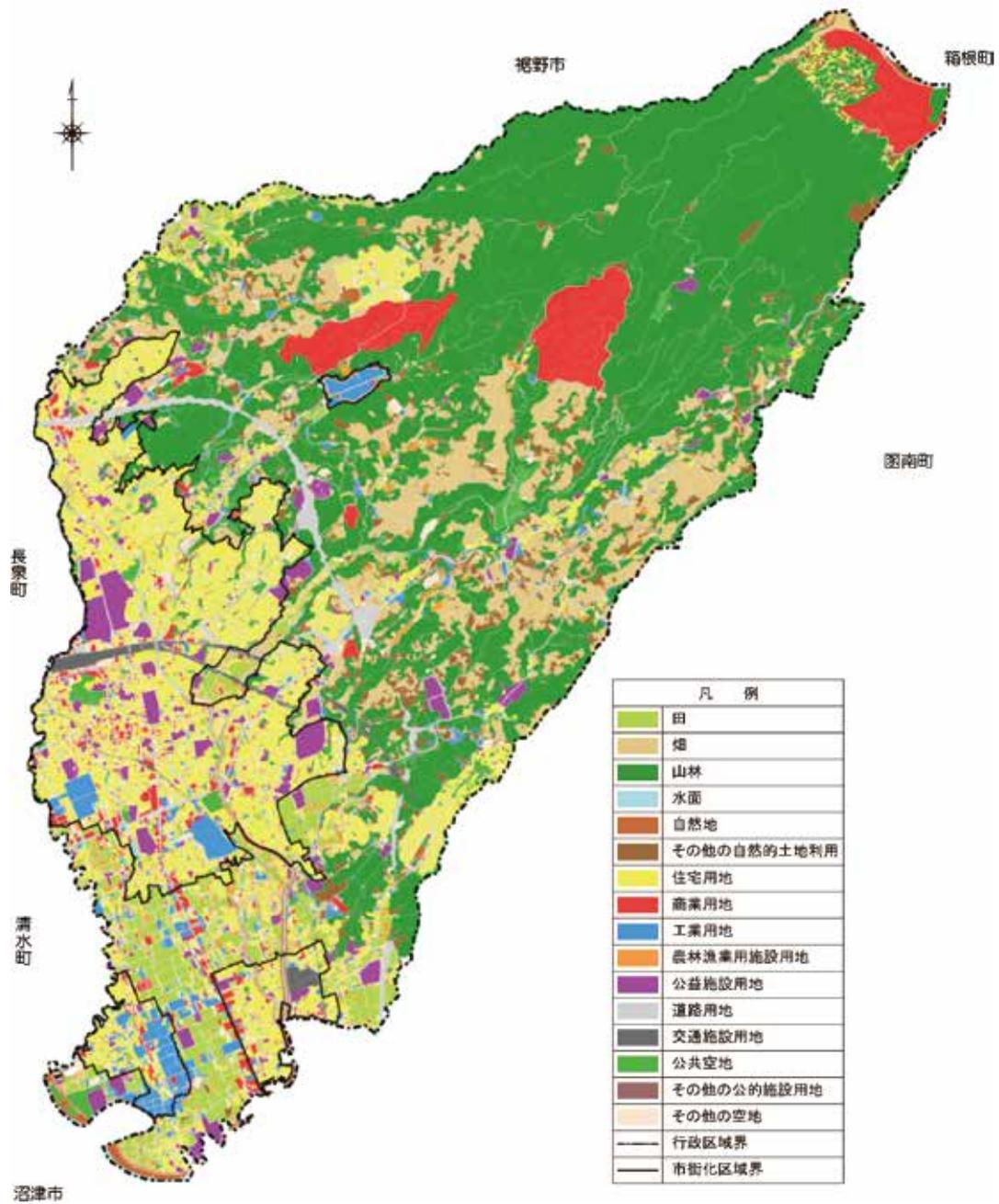


図 1-13 土地利用現況図【資料:第3次都市計画マスタープラン】

(6) 景観

本市は箱根連山を背に霊峰富士を望み、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれています。また、古くから東海道の要衝として栄え、楽寿園や三嶋大社、富士山の眺望に代表される優れた自然的・歴史的景観を有しています。

本市において最も特徴ある景観要素は、市街地を流れるせせらぎと水辺の緑です。

市街地の随所から自噴する湧水は、^{げんべえがわ}源兵衛川、桜川、御殿川等のせせらぎとなり、水辺の緑と相まって潤いのある景観を創り出しています。

本市は平成20年度(2008)に「三島市景観計画」を策定しており、市内全域を景観計画区域に定めて、良好な景観形成のための施策を推進しています。具体的には、特に良好なまちなみ景観を形成する必要がある地区を「景観重点整備地区」とし、富士山・駿河湾を望むポイントを「眺望地点」に指定するなど、無電柱化と併せた修景整備や屋外広告物の規制・誘導等を実施しています。

新三島八景

本市は平成19年度(2007)に三島商工会議所と協働で新三島八景を選定しました。これは、三島市都市景観形成基本計画に示した「人々の心に映る三島の印象的な景観」と三島商工会議所が提唱する地域振興ビジョンの「三島ブランド化8構想」を具現化するため、広報みしま等で募集した市民からの意見を参考に選定したものです。

【春】 三嶋大社桜の舞、山中城の障子堀

【夏】 ^{げんべえがわ}源兵衛川の蛍

【秋】 イチョウ並木の黄葉、楽寿園の紅葉

【冬】 箱根の大根干し、松並木の^{こもまき}孤巻、^{なかざと}中郷温水池の逆さ富士



図 1-14 新三島八景パンフレット

(7) 交通

本市は、東京 100km圏内に位置し、東京・名古屋方面の東西交通と北駿・伊豆方面の南北交通が交差する交通の要衝です。国道 1 号や国道 136 号などの主要幹線道路のほか、平成 26 年(2014)に伊豆縦貫自動車道の一部を構成する東駿河湾環状道路が開通して、東名高速道路とのアクセスも向上し、広域的な道路ネットワークが形成されています。

また、本市の公共交通には、JR 東海道新幹線・東海道本線、伊豆箱根鉄道駿豆線^{すんず}のほか、伊豆箱根バス、東海バス、富士急シティバス、富士急モビリティ、市内自主運行バス等多様な公共交通があり、三島駅、大場駅^{だいば}を中心に市内各方面に公共交通網が整備されています。

公共交通の人口カバー率(鉄道駅 300 m、バス停 300 mの圏域)は、全体で 92.9%と周辺の自治体と比較して公共交通網が充実しているものの、当市においても人口減少、公共交通利用者の減少、事業者の運転手不足などの問題もあり、この充実した公共交通網を維持していくため、令和 5 年度(2023)に三島市地域公共交通計画を策定し、公共交通の利用促進施策を進めています。

第3節 歴史的環境

(1) 原始時代

①旧石器時代

旧石器時代は現代よりも寒冷な気候であり、人々は中型から大型の動物を求めて移動しながら生活していました。三島市域では箱根西麓の丘陵部で狩りが行われ、多くの遺跡が発見されています。初音ヶ原遺跡では3万4千年前の地層から石器が発見されており、また、3万1千年前と推定される土坑が60基発見されました。土坑の総数は100以上にのぼると推定され、二重・三重の列状に配置されており、シカやイノシシ等の中型の動物を狙った落とし穴であると考えられています。



土坑跡
旧石器時代 初音ヶ原遺跡

②縄文時代

縄文時代には気候が温暖化し、海面上昇により「古狩野湾」が市域南部まで入り込みました。このような気候・地形の変化によって中型以下の動物の他、木の実や魚介類等様々な食料が得られるようになり、さらに土器が出現して食糧を煮炊きする技術が普及すると、人々は生活条件のよりよい場所に集落をつくるようになりました。三島市域では1万5千年前から始まる縄文時代のうち、縄文時代早期以降（1万年前以降）の遺跡が多く、特に箱根西麓の尾根では竪穴建物跡や縄文土器、石器が数多く発見されています。また、祭祀が盛んに行われるようになり、石を敷き詰めた祭壇をもつ住居（敷石住居）（千枚原遺跡）や吊手土器（観音洞B遺跡）、土偶（寺屋敷遺跡等）が出土しています。



ナイフ形石器
旧石器時代 山中城E遺跡



縄文土器 深鉢
縄文時代 陰洞B遺跡

③弥生時代

弥生時代には日本各地で稲作が普及し、三島市域でも弥生時代中期以降の稲作の遺跡を見ることができます。御殿川流域の西大久保遺跡等では水田跡と住居跡が合わせて確認され、石斧・田下駄等の農具が見つかっています。また、境川と狩野川の合流地点に



土偶
縄文時代 寺屋敷遺跡等

ある長伏六反田遺跡からは四辺に溝を掘り、中心に土を方形に盛って被葬者を葬る方形周溝墓が多数見つかっています。

このようにこの時代の人々は市域南部に広がる平野部に集落をつくって定住していました。そこでは水田を開いて生産を行い、隣接した場所に住居をつくって暮らし、さらにその近くに墓を設けていました。

(2) 古代

①古墳時代

3世紀以降、各地で有力者の墓である古墳が盛んに造営されました。古墳時代の始まりです。三島市域においても、外部の影響を受けながら古墳時代を通じて、様々な形態の古墳が登場します。古墳は集落を望む丘陵地に造営されることが多く、市域の主要な古墳群である向山古墳群^{むかいやま}や夏梅木古墳群^{なつめぎ}もこの例にあてはまります。

向山古墳群^{むかいやま}は3世紀半ばから6世紀後半に築かれた古墳群です。最も古い16号墳は竪穴式石室を持つ前期古墳です。竪穴式石室は奈良県の黒塚古墳などに類例が見られるため、16号墳は現在の近畿地方を中心に勢力を持ったヤマト王権の影響を受けたものです。向山古墳群^{むかいやま}ではその他に14基の円墳と1基の前方後円墳を確認していますが、いずれも竪穴系埋葬施設をもつ、比較的古い形態の古墳群です。

向山古墳群^{むかいやま}と前後するように古墳時代後期には横穴式石室墳からなる夏梅木古墳群^{なつめぎ}が登場します。少なくとも19基の円墳が確認されており、出土遺物から6世紀後半から7世紀後半にかけて築造され、利用されていたものと考えられます。

さらに、墳丘を持たない横穴墓が市内各所に築かれました。カンカン穴横穴群^{あこう}や赤王清水洞横穴群では、奈良時代の律令国家の影響を受けた、7世紀から8世紀の土器が出土しています。



水田跡
弥生時代 西大久保遺跡



弥生土器
弥生時代中期 長伏六反田遺跡



向山16号墳
古墳時代前期 向山古墳群



住居跡から出土した土師器
古墳時代中～後期 金沢遺跡

②飛鳥・奈良・平安時代

中央集権体制の確立を目指して、朝廷は地方へ国司を派遣しました。伊豆国では国府の三島で国司が政務を執りました。また、6世紀に仏教が伝来し、仏教文化が都から地方にひろがると、三島市域にも寺院が建立されました(市ヶ原廃寺、塔の森廃寺、天神原廃寺等)。8世紀中頃に国ごとに国分僧寺(国分寺)、国分尼寺が建立されると、伊豆国では国府である三島に国分寺・国分尼寺が建立されました。

市街地に国分寺跡が発見されていますが、国分尼寺・国庁の位置は確定できていません。ただし、東本町の上才塚遺跡では国司館の一角と考えられる建物跡や道路等が発見されており、その北方の大社町地内が国庁所在地の有力な候補になっています。国分尼寺については、国分寺の東に位置する芝本町等が推定地としてあげられており、承和3年(836)の焼失後は大社町の祐泉寺周辺に代用国分尼寺が置かれたと推定されています。この祐泉寺付近からは塔心礎や瓦、寺院を示す遺構等が見つっています。

古代の統治には祭祀が欠かせませんでした。三島市域の箱根田遺跡では、奈良～平安時代の祭祀跡でけがはら穢れを祓うための墨書土器や人型木製品が出土しています。

また、平野部からは国庁、国分寺など国の機関に関連するものだけでなく、比較的大規模な集落の跡も見つっています。

平安時代後期には三嶋大社が伊豆半島南部から現在の場所へ遷ってきました。これは、新任国司の国内諸社参拝の便宜上、三嶋大社が伊豆国の総社(一国内の複数の神社を1ヶ所にとりまとめて勧請した神社)として国府の地に勧請されたものです。以後、三島のまちは三嶋大社を中心に発展しました。



国分寺塔跡
8世紀 伊豆国分寺境内



上才塚遺跡
8～9世紀前半頃



箱根田遺跡の主な出土品
奈良・平安時代

(3) 中世

①鎌倉・南北朝・室町時代

平治元年(1159)の平治の乱の後、伊豆韮山のひるがしま蛭ヶ島(伊豆の国市)に配流された源頼朝は伊豆で約20年間の流人生活を送りました。治承4年(1180)8月17日、三嶋大社の祭礼の日に源氏再興の旗揚げをし、その後平氏を滅ぼして鎌倉に幕府を開きました。

源頼朝は流人時代から三嶋大社を崇敬し、源氏再興の百日祈願を行ったと伝わっています。そのため、三嶋大社と韮山の間には頼朝の百日祈願にまつわる伝承が数多く残っています。例をあげると、間眠神社では頼朝がこの地の松の下でまどろんだことが神社の名称の由来といわれています。右内神社には境内に手洗い水がないために頼朝がなぎなたで地面を二、三度突いたところ水が湧き出した、という伝承があります。

鎌倉幕府の治世が安定すると、源頼朝は三嶋大社一帯の整備に着手しました。境内地を南に広げ門前に延びる下田街道を直線状にし、その先に大鳥居を整備しました。

その後も、鎌倉北条氏、足利氏、小田原北条氏、徳川氏といった有力な武士は三嶋大社を保護しました。この時代の三島は三嶋大社の門前町として経済的にも文化的にも発展しました。これに応じて町の呼び名も室町時代を境に「こう国府」から「三島」に変わりました。

②戦国・安土桃山時代

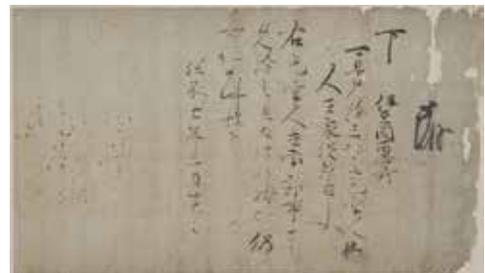
駿河国を支配する今川氏の配下で興国寺城(沼津市)の主、伊勢宗瑞(北条早雲)は三嶋大社に参籠して吉夢を見た後に、伊豆韮山堀越御所の足利茶々丸を攻め、伊豆国を支配して自立しました。これが東国の戦国時代の幕開けです。北条氏は伊豆国支配のために韮山城を居城とし、その後、本拠地を小田原城に移し、関東一円に支配を広げました。北条氏は



間眠神社(東本町1丁目)



手洗い水跡
右内神社(梅名)



源頼朝下文
鎌倉時代 三嶋大社宝物館蔵



山中城跡の障子堀

箱根西麓に山中城を築き、足柄城、韮山城とともに北条氏の西の国境を守らせました。

戦国時代末期の天正18年(1590)、豊臣秀吉は小田原城を攻略して天下統一を成し遂げました。その緒戦となったのが天正18年(1590)3月29日の山中城の合戦です。4千人の将兵が守る山中城は3万5千人の豊臣軍に激しく攻め立てられ、わずか半日で落城しました。まさに三島は戦国時代の幕を開け、そして幕を下ろすきっかけとなった地といえます。

③三嶋 曆

古代、中国から曆が伝わると、朝廷によって曆がつくられるようになりました。この頃、曆は主に都に住む貴族や役人、僧侶が使用しました。鎌倉幕府が成立して中世に入ると、地方の武士も曆を求めるようになります。そのため、漢字ではなく読みやすい仮名で書かれた曆の需要が増大し、地方で仮名曆の木版印刷がはじまりました。三嶋大社でつくられた三嶋曆は、地方で摺られた仮名版曆としては最も古いものの一つといわれています。中世には独自に曆を作成しており、天体観測もしていたようです。

三嶋曆は印刷が美しく、早くから版曆であったため、室町時代には仮名版曆のことを「三嶋曆」と呼んでいました。

その後、江戸時代になると曆に関する幕府の統制が厳しくなり、独自の曆づくりは禁止されます。ただし、曆の印刷・販売の継続は認められ、その知名度から三島宿を代表するみやげものとなりました。

④古今伝授

文明3年(1471)、武将であり歌人でもある東常縁が連歌師宗祇に「古今和歌集」について講釈し、歌の秘伝の解釈を相伝しました。いわゆる古今伝授です。古今伝授は常縁が戦のために来た三島と、常縁の地元の郡上八幡(岐阜県郡上市)で1回ずつ行われたと考えられています。



豊臣方、北条方双方の戦死した武将の墓が建つ宗閑寺



現存最古の三嶋曆 永享九年曆 室町時代 足利学校蔵



天明九年三嶋曆(綴曆) 江戸時代 関守敏氏蔵



古今和歌集両度聞書 江戸時代出版

宗^{そう}祇^ぎがこのときの講釈の聞書きを整理したのが「古今和歌集^{りょうどききがき} 両度聞書」で、その内容は後世の注釈書に継承されました。

⑤中世の東海道

古代の律令制下における官道としては足柄峠を越える足柄路が東海道として利用されていました。平安時代に富士山の噴火が激しくなると一時足柄路が塞がり、延暦 21 年(802)には箱根路が開かれました。しかし、このときの箱根路利用は一時的なもので、翌年には足柄路が復旧しています。中世に入ると、足柄路と並んで箱根路の利用が進み、源頼朝による二所詣にも箱根路が利用されました。ただし、ここでいう箱根路とは近世の箱根路よりも北側のルートであったと考えられており、「推定平安・鎌倉古道」と呼んでいます。その後、戦国時代には近世の箱根路とほぼ重なるルートが主要道となったようで、小田原北条氏はこのルート上に山中城を築きました。



現在の推定平安・鎌倉古道

(4) 近世(江戸時代)

①宿場町

関ヶ原の戦いの翌年にあたる慶長 6 年(1601)、徳川家康が東海道の宿場を指定しました。三島宿もこのときに宿場に指定されています。以来、江戸幕府によって東海道をはじめとする五街道が整備されます。また、平和な時代が続いたことにより大名行列等の公的な交通だけでなく、庶民の旅人も増加し、街道の交通量は拡大していきました。特に、三



東海道五十三次之内 三島 朝霧
江戸時代後期 歌川広重作



三島宿場風俗絵屏風
(左隻)
江戸時代後期
小沼満英筆
三島信用金庫蔵

島宿は東海道一の難所といわれる箱根八里を東に控えて、多くの旅人が宿泊し、宿場町としてたいへんにぎわいました。ただし、宿場には幕府から伝馬役が課されており、特に箱根八里の伝馬役を果たさなければならぬ三島宿の住民にとってその負担はとてつもないものでした。その他、木造建築が密集する宿場町は火事や地震に弱く、たび重なる大火や幕末の安政東海地震で多くの家屋が被害にあいました。

また、三島宿は三嶋大社を中心に東西に東海道、北に佐野街道(甲州道)、南に下田街道が延びる「四辻」のまちであり、交通の要衝として情報の結節点となっていました。そのため、三島市域では三島宿を中心に文化的な活動も盛んでした。

その例として、三島に招かれて私塾を開いた並河誠所の影響を受けた、安久村の秋山富南による『豆州志稿』の編さんや伊豆佐野村の滝の本連水、八反畑村の孤山堂凌頂らを中心とした俳諧の隆盛等があげられます。

②三島市域の近世

三島市域を含む伊豆国の大部分は幕府の直轄領と旗本領で占められていました。江戸時代前半、その支配は三島代官を中心に行われました。江戸時代中頃の宝暦8年(1758)に三島代官が廃止され、翌年から葦山代官江川氏の支配に替わっても、三島代官役所は陣屋(代官役所の出張所)として残され、幕末には農兵調練場の一つがこの陣屋に置かれるなど、三島は江戸時代を通じて伊豆の政治的な中心地の一つとして機能しました。

東海道の三島宿から小田原宿の間は「箱根八里」と呼ばれる街道一の難所でした。江戸時代初めには坂道に箱根竹と呼ばれる笹のような細い竹を敷き詰める、という整備が行われていましたが、延宝8年(1680)には石畳が整備されました。箱根西坂ではおよそ2里分(8km程度)の石畳が整備されたとの記録があるので、西坂全体の半分程度に石畳が敷か



『豆州志稿』
江戸時代 秋山富南編



矢田之郷検地帳
江戸時代初期 中 鈴木家文書



箱根旧街道石畳(腰巻地区)
江戸時代

れたようです。また、箱根に宿場町が置かれたのとほぼ同時期の元和年間（1615～24）には箱根西坂に「五ヶ新田」と呼ばれる五つの村がつくられ、公私の旅人相手の運送業や茶屋経営により繁栄しました。

(5) 近現代

① 明治時代

江戸時代に1宿と約30の村に分かれていた三島市域は明治22年（1889）の町村制の施行に伴い、三島町・北上村・錦田村・中郷村の4町村に編成され、また、地方議会が開かれる等近代的な政治・行政組織が整備されました。その他、吉原守拙を招聘しての小学校の設立、中権精舎や蓄花女学校といった独自の学校の設立、養蚕・製糸業・牧畜業・牛乳製造・乳加工業等の産業の近代化、銀行の設立等、多方面で社会の近代化・西洋化が進みました。

明治22年（1889）に現在の御殿場線を通る東海道線が全線開通すると、東海道を行き交う旅人は激減します。かつて多くの旅人でにぎわった三島宿や箱根西坂の村々は鉄道交通から切り離されて経済的な苦境に立たされました。これ以降、三島市域の住民は鉄道網への接続に力を入れ、明治時代後半には東海道線三島駅（現下土狩駅）の設置や伊豆へ延びる豆相鉄道（現伊豆箱根鉄道駿豆線）の開業とその延長、三島市街地と沼津駅とを結ぶ駿豆電気鉄道の開業を実現しました。また、箱根西坂の村々では主要産業を畑作に転換しました。その後、ここで採れる野菜は「坂もの」と呼ばれて東京、大阪などの遠隔地へ出荷されるほどの人気ブランドとなります。

このような明治時代の近代化・西洋化は地域の有力者、特に江戸時代に三島宿や周辺村々で宿役人・村役人を勤めていた者やその子弟によって担われました。彼らの中には俳諧・和歌等の文化的な活動による横のつながりもあり、互いに連携・協力しながら地域の近代化を進めていきました。



三島最初の小学校 三島覺扁額
明治11年（1878） 三条実美筆



三嶋社座繰製糸
生糸輸出用ラベル
明治30年頃（1897）



花島煉乳場 金鶏ミルク ラベル
大正時代



豆相鉄道 明治時代

②大正時代

大正8、9年(1919、20)に陸軍野戦重砲兵第二連隊、第三連隊が三島町北部に誘致されました。連隊に食品や軍服等の商品を納入する商店が増え、軍人やその家族が飲食店や娯楽施設を利用し、多くの下士官や将校が町内の借家に住んだことでまちは活気を取り戻しました。こうして大正時代以降の三島は軍都として発展しました。

③昭和時代(戦前・战中)

昭和5年(1930)11月26日早朝、北伊豆地震が発生しました。この地震により三島町役場や三嶋大社をはじめ、学校や寺院、多くの商店等の建物が倒壊しました。三島町では震災後2年をかけて復興事業を展開し、道路拡幅や学校、役場の建て替えを行いました。

昭和9年(1934)12月、三島町民が長年待ち望んでいた東海道線^{たんな}丹那トンネルが開通し、三島駅が現在の場所に開業、以後伊豆の玄関口として発展していきます。

三島町は昭和10年(1935)に北上村と、昭和16年(1941)に錦田村と合併し、三島市となりました。

この年の12月、日本はアメリカ合衆国に宣戦布告をし、急速に戦時色が強まりました。三島市は空襲こそ受けなかったものの、住民は戦時下の苦しい生活を強いられました。

④現代(戦後)

戦後の三島は軍都からの転換を迫られます。連隊跡地等には主に教育・文化施設が建設されました。現在、連隊のあった地区は文教町と名付けられ、日本大学(大学、短大、高校、中学校)、県立三島北高校・^{ちょうりょう}長陵高校、市立北中学校・北小学校・北幼稚園等、幼稚園から大学までの教育施設が立地しています。また、陸軍病院跡には市民体育館・温水プールが、中島飛行機の工場跡には国立遺伝学研究所が立地しています。



野戦重砲兵第三連隊
大正～昭和初期



北伊豆震災での被害
昭和初期 絵葉書 大震災の実況



三島駅開業の祝賀会
昭和9年(1934)



庶民大学通信
昭和20年(1945)代前半

終戦の翌年から数年間、地域住民が主体となって庶民大学三島教室が運営されました。ここでは東京の大学の研究者らを講師として招き、民主主義・経済学・文学・映画等幅広い分野の講座が開かれました。これらの講座の他にも機関誌の発行、憲法に関する学習会、図書共同購入等様々な活動が行われています。また、昭和38年(1963)には石油コンビナート進出に対する住民主体の反対運動があり、誘致が撤回されています。このような運動は平成に入ってから進められた、市民・企業・行政が協働して水辺の再生を中心としたまちづくりを進める「街中がせせらぎ事業」にもつながっています。

また、三島市は昭和29年(1954)に中郷村なかざとと合併し、現在の市域が形づくられ、昭和44年(1969)には東海道新幹線三島駅が開業、郊外へ住宅地が広がったことで人口が増加し昭和61年(1986)には人口10万人を達成しました。現在でも三島市は伊豆地域で最も人口の多い都市となっています。このように、三島市は富士・箱根・伊豆の玄関口に位置し、県東部地域の中核を担う都市として発展しています。



石油コンビナート反対運動
昭和39年(1964)



街中がせせらぎ事業で整備された源兵衛川

第2章 三島市の文化財に関する把握調査

第2章 三島市の文化財に関する把握調査

第1節 これまでの文化財の把握調査

(1) 静岡県による調査

静岡県は、昭和36年(1961)から現在に至るまで、様々な分野の文化財調査報告書をまとめています。このうち24の報告書で本市に関連する文化財が取り上げられています。

表 2-1 静岡県による文化財調査報告書(市内の文化財が対象に含まれるもの)

No.	報告書等の名称	発行年	概要
1	(第1集)静岡県遺跡地名表	S36	県内の遺跡の名称や所在地、遺物等に関する類型別の一覧表。本市の遺跡として145件が掲載されている。
2	(第2集)静岡県の古代文化	S38	静岡県遺跡地名表に関する学術的な解説書。本市に関連する古墳の分布や市ヶ原廃寺、伊豆国分寺の出土物等に関して解説されている。
3	(第12集)静岡県の民家	S48	県内の民家の保存のために実施した民家緊急調査の報告。一次から三次の調査が行われた。本市からは2件が第一次調査の対象となり、うち1件は第二次調査の対象となった。
4	(第17集)静岡県民俗地区：民俗文化財分布調査報告書	S53	県内における衣食住や社会生活、年中行事等の呼称に関する調査報告。本市からは山中新田、玉沢の2集落を対象に、呼称調査が実施されている。
5	(第19集)静岡県の近世社寺建築：近世社寺建築緊急調査報告書	S54	県内の近世、中でも江戸時代中期以降に建立された神社、寺院、霊廟等の建造物に関する調査報告。本市からは、妙法華寺、三嶋大社に関して報告されている。
6	(第20集)静岡県歴史の道調査報告書 東海道	S55	県内の古代～近世の東海道に関する調査報告。本市内では93ヶ所が報告されている。
7	(第23集)静岡県の中世城館跡	S56	県内の中世遺跡のうち城館跡に関する調査報告。本市に関連する12の城館が報告されている。
8	(第31集)静岡県歴史の道調査報告書 下田街道	S59	下田街道の概観や遺跡・遺物に関する調査報告。本市に現存する主な遺跡・遺物として、三嶋大社等17件が報告されている。
9	(第34集)静岡県の民謡：民謡緊急調査報告書	S61	県内に伝承されてきた民謡の調査報告。本市からは、労作歌や子守唄等11曲が報告されている。
10	(第35集)静岡県内横穴群分布調査報告書 駿河・伊豆の横穴群	S61	県内の横穴群に関する調査報告。本市からは8ヶ所の横穴群が報告されている。
11	(第41集)静岡県の諸職：静岡県諸職関係民俗文化財調査報告書	S64	県内の手仕事による様々な職人と職業に関する調査報告。本市からは、木工職人(臼作り)に関して報告されている。
12	(第42集)静岡県の窯業遺跡：静岡県内窯業遺跡分布調査報告書	S64	県内の窯業遺跡に関する調査報告。本市の遺跡は報告されていないが、昭和29年から30年代初めにかけて三島市誌編さんに関する調査の一環として、瓦窯を中心とする窯跡の調査が行われたことが記載されている。

No.	報告書等の名称	発行年	概要
13	(第46集)三嶋大社関係文書目録	H5	三嶋大社宮司を世襲した矢田部家及び三嶋大社社家等の旧蔵文書の目録。2,726件、3,001点の文書等が目録化されている。
14	(第50集)静岡県の民俗芸能：静岡県民俗芸能緊急調査報告書	H9	県内で保存伝承されている民俗芸能の調査報告。本市からは、三嶋大社のお田打等の六つの民俗芸能が報告されている。
15	(第52集)静岡県の重要遺跡：静岡県内重要遺跡詳細分布調査報告書	H10	県内の地域の歴史を明らかにする上で欠かせない重要な遺跡に関する調査報告。本市からは、23の遺跡が報告されており、初音ヶ原遺跡、箱根旧街道に関して詳細な報告がある。
16	(第53集)静岡県の祭り・行事：静岡県祭り・行事調査事業報告書	H12	県内の特色のある伝統的な祭り・行事に関する調査報告。本市からは、三島夏まつり(現三嶋大祭り)、ヤッサモチ、オテンノウサン等17の祭り・行事が報告されている。
17	(第54集)静岡県の近代化遺産：静岡県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書	H12	県内の近代化遺産(概ね幕末から第二次世界大戦終了までに、西欧の技術をはじめとする近代的手法により構築された建造物等)の調査報告。本市からは、旧野戦重砲兵第2・第3連隊施設等の6ヶ所が報告されている。
18	(第55集)静岡県の前方後円墳：静岡県内前方後円墳発掘調査等事業報告書(総括編・資料編・資料編総括編索引)	H13	県内の前方後円墳に関する調査報告。本市からは、孫右衛門洞と向山古墳群が報告されている。
19	(第56集)静岡県の近代和風建築：静岡県近代和風建築総合調査報告書	H14	県内の明治以降に伝統的技法及び意匠を用いてつくられた住宅・公共建築・宗教建築等に関する調査報告。本市からは、旧小松宮別邸(現：楽寿館)、三嶋大社社殿が報告されている。
20	(第57集)静岡県の古代寺院・官衙遺跡	H15	県内の古代寺院・官衙(役所)に関する調査報告。本市からは、四つの寺院遺跡、五つの官衙遺跡が調査対象となり、三つの寺院遺跡と三つの官衙遺跡が報告されている。
21	(第58集)静岡県の天然記念物(地質鉱物)：天然記念物緊急調査(地質鉱物)報告書	H16	県内の天然記念物のうち地質や鉱物に関する調査報告。本市からは、楽寿園小浜池、狩野川の自由蛇行跡、箱根新期軽石流が報告されている。
22	(第69集)静岡県の中近世墓基礎資料編	H31	県内各所の中近世墓の一覧表と所在地に関する報告。本市内の25の寺院と長伏六反田遺跡が調査対象となっている。
23	(第70集)静岡県の中近世墓詳細報告編	R2	詳細調査を実施した全ての中世石塔に関する報告。本市内の光安寺の板碑が報告されている。
24	(第71集)静岡県の中近世墓総括・地域報告編	R3	「基礎資料編」「詳細報告編」で抽出された重要な石塔群が所在する地域における、石塔からみた地域の中近世史に関する報告。本市光安寺の武蔵型板碑が掲載されている。
25	(第72集)静岡県の文化的景観総合調査報告書	R4	県内の文化的景観に関する調査報告。本市からは2件の文化的景観が掲載されている。

(2) 市による調査

本市では昭和30年(1955)代に『三島市誌』を、平成4年(1992)までに増補編、増補資料編を発行しました。また、市内遺跡の発掘調査に伴う埋蔵文化財調査報告書や『史跡山中城跡』、『三島市遺跡地図・地名表』等の調査報告書を発行しています。

郷土資料館では所蔵資料調査や企画展開催に伴う調査研究、地域での文化財調査を行っており、その結果を文書目録、石造物の調査報告書等にまとめています。

表 2-2 市による調査報告書等(郷土資料館関連を除く)

No.	報告書等の名称	発行者	発行年
1	『三島市誌』 上巻	三島市	S33
2	『三島市誌』 中巻	三島市	S34
3	『三島市誌』 下巻	三島市	S34
4	『三島市誌』 増補	三島市	S62
5	『三島市誌』 増補 資料編Ⅰ	三島市	H1
6	『三島市誌』 増補 資料編Ⅱ	三島市	H4
7	発掘調査報告書 (『 ^や 谷田 ^た 天台遺跡-三島市 ^や 谷田 ^た 宅地造成に伴う調査報告書-他 45 件)	三島市教育委員会	S57 ~ H30
8	『三島市埋蔵文化財発掘調査報告』Ⅰ ~ XXI	三島市教育委員会	H4 ~ 29
9	『三島市埋蔵文化財発掘調査報告 補助事業版』 第1 ~ 9号	三島市教育委員会	H27 ~ R6
10	『三島市遺跡地図・地名表』	三島市教育委員会	H23
11	『三島市埋蔵文化財発掘調査報告 X VII別冊 - 三島市遺跡地図個別範囲図 -』	三島市教育委員会	H24
12	『史跡山中城跡-第1分冊-』	三島市教育委員会	S59
13	『史跡山中城跡-第2分冊-』	三島市教育委員会	S60
14	『三島市 ^こ 浜池 ^{はまいけ} 保存調査に関する報告書』	三島市教育委員会	S60
15	『史跡山中城跡Ⅱ』	三島市教育委員会	H6
16	『史跡山中城跡樹木等調査』	三島市教育委員会	H19
17	『自然環境基礎調査』	三島市環境企画課	H15

表 2-3 郷土資料館による調査報告書等

No.	報告書等の名称	発行者	発行年
1	勝俣文庫目録	三島市教育委員会	S59
2	三島本陣 樋口家文書目録	三島市教育委員会	S59
3	花島家文書目録	三島市郷土資料館	H23
4	中 鈴木家文書目録	三島市郷土資料館	H24
5	中島 落合家文書目録	三島市郷土資料館	H25
6	三島 ^{といやば} 問屋場・町役場文書目録	三島市郷土資料館創造活動事業実行委員会	H26
7	^{やすひさ} 安久 杉山家文書目録1	三島地域資料研究会	H29
8	^{やすひさ} 安久 杉山家文書目録2	三島地域資料研究会	H30
9	三島の石造物1 ^{やすひさ} 梅名・安久	三島地域資料研究会	H31
10	三島の石造物2 ^{だいは} 大場	三島市郷土資料館	R3
11	三島の石造物3 中島・多呂・北沢	三島市郷土資料館	R4
12	三島の昔話	三島市教育委員会	H1
13	続三島の昔話	三島市教育委員会	H4

(3) 民間の団体や個人による調査

市内では民間の団体や個人による調査研究も行われており、その成果は機関誌や報告書にまとめられています。

表 2-4 民間の団体・個人による調査報告書等

No.	報告書等の名称	発行者	発行年
1	ふるさと錦田の石造物	錦田郷土研究会	H18
2	ふるさと錦田の石造物一箱根西坂みち一(二)	錦田郷土研究会	H23
3	三島市誌編纂資料抄(近世)(一)~(十)	個人	H24

(4) 博物館等の所蔵する文化財の把握調査

市内には佐野美術館(登録博物館)、郷土資料館(登録博物館)、三嶋大社宝物館(指定施設)の三つの博物館があり、その他の公共施設にも多数の文化財が所蔵されています。そこで、本計画の作成にあたって市内の主な施設が所蔵する文化財の把握調査を行いました。調査は各施設がまとめた文化財のリストや既存の報告書等による調査、聞き取り調査、現地での確認を組み合わせて実施しました。調査を行った施設と主な文化財は以下のとおりです。

表 2-5 調査対象施設

No.	施設名	主な文化財
1	佐野美術館	有形文化財(絵画、彫刻、工芸品)
2	郷土資料館	有形文化財(絵画、工芸品、典籍、古文書) 民俗文化財(有形民俗)
3	三嶋大社宝物館	有形文化財(工芸品、古文書)
4	市立図書館	有形文化財(歴史資料) その他(絵葉書・古写真)
5	市民文化会館	有形文化財(絵画、彫刻)
6	生涯学習センター	有形文化財(絵画、彫刻)
7	市役所庁舎	有形文化財(絵画)
8	市埋蔵文化財保管庫	有形文化財(考古資料)



佐野美術館



郷土資料館



三嶋大社宝物館

第2節 文化財の把握調査の状況

本計画作成時点での文化財の把握調査の状況は以下のとおりです。

表 2-6 文化財の把握調査の状況

種 別		調査状況	備 考	
有形文化財	建造物	△	近代化遺産等分野の限られた調査のみで、特に寺社の把握調査が不足している。 石造物については、地域、種類により調査に偏りがあり、把握調査の行われていない地域や不十分な種類がある。	
	美術 工芸品	絵画	△	博物館によるテーマごとの調査は行われているが、寺院の仏像、学校所蔵の美術作品等の把握調査が不足している。
		彫刻	△	
		工芸品	△	
		書跡	△	
		典籍	△	個人、町内会、学校の所蔵資料の把握調査が不足している。
		古文書	△	
		考古資料	○	ほとんどが市文化財課に所在し、把握されている。
歴史資料	△	個人、町内会の所蔵資料について、把握調査が不足している。		
無形文化財		○	農兵節、日本遺産の構成文化財となっている「鰻料理」の他は該当なし。	
民俗文化財	有形の民俗文化財	○	郷土資料館に集中しており、概ね把握されている。	
	無形の民俗文化財	△	把握調査が不足している地域、種類がある。	
記念物	遺跡（史跡）	○	市の調査により概ね把握されている。	
	名勝地（名勝）	○	「新三島八景」の選定により概ね把握されている。	
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	○	市の調査により概ね把握されている。	
文化的景観		×	面的な把握調査は行われていない。	
伝統的建造物群		—		
その他	伝承・昔話	○	市の調査により概ね把握されている。	
	写真・絵葉書	△	博物館所蔵以外の把握調査が不足している。	

○：概ね調査済み、△：調査不足、×：未調査またはほとんど調査されていない
—：分布の可能性はあるが現時点で該当する文化財が確認されていない

第3章 三島市の文化財の概要

第3章 三島市の文化財の概要

第1節 指定等文化財

本市には令和6年(2024)4月現在、95件の指定等文化財があります。そのうち国指定は25件、県指定は13件、市指定は48件、また、9件の建造物が国登録文化財となっています。これらを種別ごとに見ていくと、有形文化財75件、民俗文化財2件、記念物18件となっています。無形文化財、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術で指定等を受けているものはありません。(国認定の重要美術品2件については、未指定文化財に含めています。)

表 3-1 三島市の指定等文化財の件数(令和6年4月現在)

種別		国指定	県指定	市指定	国登録	合計	
有形文化財	建造物	1	0	7	9	17	
	美術工芸品	絵画	2	2	10	0	14
		彫刻	1	1	2	0	4
		工芸品	11	4	3	0	18
		書跡	3	0	0	0	3
		典籍	0	2	6	0	8
		古文書	1	0	1	0	2
		考古資料	0	0	5	0	5
		歴史資料	0	0	4	0	4
	有形文化財 小計	19	9	38	9	75	
無形文化財		0	0	0	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0	
	無形の民俗文化財	0	2	0	0	2	
記念物	遺跡(史跡)	3	1	1	0	5	
	名勝地(名勝)	1	0	0	0	1	
	動物・植物・地質鉱物 (天然記念物)	2	1	9	0	12	
	記念物 小計	6	2	10	0	18	
文化的景観		0	—	—	—	0	
伝統的建造物群		0	—	—	—	0	
合計		25	13	48	9	95	
		86					

表 3-2 国指定文化財一覧(令和6年4月現在)

No.	種別	名称	員数	所有者管理者	所在地	指定年
1	重文(建造物)	三嶋大社本殿、幣殿及び拝殿	1棟	三嶋大社	大宮町	平成12年
2	重文(絵画)	絹本 著色 日蓮上人像	1幅	妙法華寺	玉沢	大正8年
3	重文(絵画)	絹本 著色 十界勧請大曼荼羅図 (絵曼荼羅)	1幅	妙法華寺	玉沢	大正9年
4	重文(彫刻)	木造大日如来坐像	1躯	佐野美術館	中田町	明治32年
5	国宝(工芸品)	梅蒔絵手箱	1具	三嶋大社	大宮町	昭和27年
6	国宝(工芸品)	薙刀 銘備前国長船住人長光造	1口	佐野美術館	中田町	昭和32年
7	重文(工芸品)	短刀 表二三島大明神他人不与之 ／裏二貞治三年藤原友行ノ銘アリ	1口	三嶋大社	大宮町	明治44年
8	重文(工芸品)	太刀 銘宗忠	1口	三嶋大社	大宮町	明治45年
9	重文(工芸品)	脇指 銘相模国住秋義／伊豆三島 大明神奉拝佐藤松千代貞成	1口	三嶋大社	大宮町	大正9年
10	重文(工芸品)	太刀 銘長元	1口	佐野美術館	中田町	昭和27年
11	重文(工芸品)	秋草文黒漆太刀 中身銘豊後国行 平作	1口	佐野美術館	中田町	昭和28年
12	重文(工芸品)	刀 朱銘義弘(名物松井郷)／本阿 (花押)	1口	佐野美術館	中田町	昭和29年
13	重文(工芸品)	短刀 銘国光	1口	佐野美術館	中田町	昭和32年
14	重文(工芸品)	刀 金象嵌銘備前国兼光(名物大 兼光)／本阿弥(花押)	1口	佐野美術館	中田町	昭和34年
15	重文(工芸品)	刀 無銘正宗	1口	佐野美術館	中田町	昭和36年
16	重文(書跡)	注法華経(開結共)／日蓮自注	10巻	妙法華寺	玉沢	昭和27年
17	重文(書跡)	撰時抄 日蓮筆	5巻	妙法華寺	玉沢	昭和27年
18	重文(書跡)	般若心経(源頼家筆)	1巻	三嶋大社	大宮町	平成6年
19	重文(古文書)	三嶋大社矢田部家文書	592 通	三嶋大社 矢田部盛男	大宮町	平成6年
20	史跡	箱根旧街道[錦田一里塚]	1遺跡	三島市	箱根町 三島市 函南町	大正11年
		[箱根旧街道 追加指定]				平成16年
21	史跡	山中城跡[98,183.00㎡]	1遺跡	三島市	山中新 田	昭和9年
		[19,673.91㎡ 追加指定]				昭和54年
22	史跡	伊豆国分寺塔跡	1遺跡	伊豆国分寺	泉町	昭和31年
23	名勝	楽寿園[指定地域は小浜池とその周 辺、常盤の森等]	—	三島市	一番町	昭和29年
24	天然記念物	三嶋神社のキンモクセイ	1本	三嶋大社	大宮町	昭和9年
25	天然記念物	楽寿園[指定地域は小浜池とその周 辺、常盤の森等]	—	三島市	一番町	昭和29年

[] 内は指定範囲等の注記

表 3-3 県指定文化財一覧(令和6年4月現在)

No.	種別	名称	員数	所有者管理者	所在地	指定年
1	絵画	紙本著色白隠自画像	1幅	龍澤寺	沢地	昭和45年
2	絵画	楽寿館楽寿の間絵画	210面	三島市	一番町	昭和55年
3	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1躯	—	—	昭和25年
4	工芸品	刀 銘 表 <small>えちごばくかのし</small> 越後幕下士 おむら かほくなくさめにかじをさしずし 大村加卜 慰 指図鍛冶 <small>きゅうひやくねんちゅうのものがたりをきかんとほつす</small> 欲聞九百年中之物語／裏 正保三 吉日 予非鍛冶真十五枚 <small>よかじにあらす</small> 甲伏有不折不卷之徳	1口	佐野美術館	中田町	昭和33年
5	工芸品	刀 銘表 <small>そうじちくぜんたいじょうたいけいとうなわたね</small> 荘司筑前大掾大慶藤直胤 (花押)／裏 天保二年仲秋イツ(刻印)	1口	三嶋大社	大宮町	昭和41年
6	工芸品	刀 銘 繁慶	1口	佐野美術館	中田町	昭和30年
7	工芸品	三十六歌仙図刺繍額	12面	三嶋大社	大宮町	平成27年
8	典籍	<small>しゅうぶんいんりやく</small> 聚分韻略	1冊	日本大学	文教町	昭和52年
9	典籍	日本書紀並びに具書	6巻 6軸	三嶋大社	大宮町	昭和55年
10	無形民俗	三島大社のお田打	—	三嶋大社のお田打奉仕者	大宮町	昭和47年
11	無形民俗	<small>みしまばやし</small> 三島囃子	—	<small>みしまばやし</small> 三島囃子保存会	川原ヶ谷	平成3年
12	史跡	<small>むかいやま</small> 向山古墳群 [3～15号墳] [追加指定 16号墳]	1遺跡	三島市	<small>やた</small> 谷田北沢	平成11年 平成28年
13	天然記念物	御嶽神社の親子モッコク	2本	御嶽神社	青木	昭和46年

[] 内は指定範囲等の注記

表 3-4 市指定文化財一覧(令和6年4月現在)

No.	種別	名称	員数	所有者管理者	所在地	指定年
1	建造物	三嶋大社 舞殿、神門及びそれに属する彫刻	2棟	三嶋大社	大宮町	昭和41年
2	建造物	玉澤妙法華寺庫裡	1棟	妙法華寺	玉沢	昭和41年
3	建造物	楽寿園内楽寿館	1棟	三島市	一番町	昭和49年
4	建造物	玉澤妙法華寺中鐘楼	1棟	妙法華寺	玉沢	昭和54年
5	建造物	圓明寺表門(伝樋口本陣表門)	1棟	圓明寺	芝本町	昭和63年
6	建造物	経王山妙法華寺伽藍 大書院・本堂・祖師堂・奥書院・中門・忠霊殿	6棟	妙法華寺	玉沢	平成15年
7	建造物	禅叢寺鐘楼門	1棟	禅叢寺	玉川	平成22年
8	絵画	小沼満英筆 三島宿場風俗絵屏風	6曲 1双	三島信用金庫	芝本町	昭和41年
9	絵画	栗原忠二画「月島の夕」	1点	郷土資料館	一番町 他	昭和55年
10	絵画	梅御殿装飾絵画	6点 10面	三島市	一番町	平成3年
11	絵画	下田舜堂画「朝焼けの富士」	1点	三島市	北田町	平成5年
12	絵画	下田舜堂画「 <small>こはまいけ</small> 小浜池」	1点	三島市	北田町	平成5年
13	絵画	細井繁誠画「月と芋畑」	1点	三島市	大宮町	平成7年
14	絵画	杉本英一画「絵画教室」	1点	三島市	大宮町	平成7年
15	絵画	芹沢晋吾画「農夫」	1点	三島市	大宮町	平成19年
16	絵画	大沼貞夫画「日輪ボロボドゥール幻想」	1点	三島市	大宮町	平成22年
17	絵画	大沼貞夫画「魔性と仏性(ボロボドゥール考) A・B」	2点	三島市	一番町	平成22年
18	彫刻	金剛力士像(阿形像、吽形像)	1対	妙法華寺	玉沢	昭和57年
19	彫刻	光安寺鼻取り地藏	1躯	光安寺	日の出町	昭和62年
20	工芸	龍澤寺隠寮内入江長八 <small>こてざいく</small> 鋳細工	—	龍澤寺	沢地	昭和41年
21	工芸	織部灯笼	1基	樋口家	南本町	昭和41年
22	工芸	<small>みよろ</small> 三四呂人形 [24点] [パラソル他 11点追加指定]	36点	個人・郷土資料館	一番町	昭和58年 平成18年
23	典籍	河合家所蔵 <small>みしまごよみ</small> 三嶋曆 及び同版木並びに関係文書 [314点] [天明9年版(綴本型) 他 82点追加指定] [31点追加指定]	428点	河合家・関守敏(郷土資料館)	大宮町・一番町	昭和41年 平成18年 令和5年
24	典籍	秋山家所蔵 秋山 <small>ふなん</small> 富南古文書原本 <small>ずしゅうしこう</small> 豆州志稿他7	20冊、 1枚	秋山家、郷土資料館	<small>やすひさ</small> 安久・一番町	昭和43年

No.	種別	名称	員数	所有者管理者	所在地	指定年
25	典籍	樋口家所蔵 三島宿本陣関係資料	68冊	郷土資料館	一番町	昭和45年
26	典籍	世古文書	11冊 附書簡	世古家・ 郷土資料館	相模原市 ・一番町	平成14年
27	典籍	落合家文書「天正十八年『豆州君澤郡 中嶋郷御縄打水帳』外地方文書」	436 点	郷土資料館	一番町	平成21年
28	典籍	接待茶屋関係文書	10点	郷土資料館	一番町	平成23年
29	古文書	天正十八年豊臣秀吉掟書	1点	郷土資料館	一番町	平成25年
30	考古資料	市ヶ原廃寺塔心礎	1基	祐泉寺	大社町	昭和41年
31	考古資料	光安寺板碑	1基	光安寺	日の出町	平成2年
32	考古資料	<small>むかいやま</small> 向山古墳出土遺物(鉄製品)	41点	三島市	大宮町	平成3年
33	考古資料	吊手土器	1点	三島市	大宮町	平成4年
34	考古資料	箱根田遺跡出土祭祀関係遺物	70点	三島市	大宮町	平成15年
35	歴史資料	扁額「三島 <small>こう</small> 鬘」	3点	郷土資料館・ 東小学校	一番町 ・東町	平成9年
36	歴史資料	「豆州伊豆佐野村」絵図	1点	勝俣家	佐野	平成12年
37	歴史資料	花島家資料	136点	郷土資料館	一番町	平成15年
38	歴史資料	接待茶屋関係調度品大茶釜 外3点	4点	郷土資料館	一番町	平成23年
39	史跡	千枚原遺跡	1遺跡	三島市	千枚原	昭和46年
40	天然記念物	<small>あいぜんいん</small> 愛染院跡の溶岩丘	—	三島市	一番町	昭和41年
41	天然記念物	神明宮神社 <small>しゃそう</small> 社叢	境内	神明宮神社	御園	昭和60年
42	天然記念物	中のカシワ	1本	三島市	中	昭和60年
43	天然記念物	願成寺クス	2本	願成寺	川原ヶ谷	昭和60年
44	天然記念物	耳石神社イタジイ	1本	耳石神社	幸原町	昭和60年
45	天然記念物	三嶋大社 <small>しゃそう</small> 社叢	境内	三嶋大社	大宮町	平成3年
46	天然記念物	矢立の杉	1本	駒形・諏訪 神社	山中新田	平成4年
47	天然記念物	鏡池 <small>おうが</small> 横臥溶岩樹型	1点	三島市	一番町	平成26年
48	天然記念物	白滝公園溶岩塚	1点	個人	一番町	令和元年

[] 内は指定範囲等の注記

表 3-5 国登録有形文化財(建造物)一覧(令和6年4月現在)

No.	登録年	名称	構造・形式	所在地	建築年代等
1	平成9年	隆泉苑	木造平屋建、瓦葺、 建築面積 324㎡	中田町 1-43	昭和6年
2	平成9年	隆泉苑表門	木造四脚門袖塀付、瓦葺	中田町 1-43	昭和6年
3	平成12年	懐古堂ムラカミ屋	木造2階建、鉄板葺、 建築面積 136㎡	大社町 18-5	大正15年
4	平成18年	<small>みしまこよみし</small> 三嶋曆師の館 (旧河合家住宅主屋)	木造平屋建、瓦葺、 建築面積 218㎡	大宮町 2-5-16	江戸末期
5	平成18年	梅御殿	木造2階建、銅板葺、 建築面積 150㎡	一番町 15-6	明治中期
6	平成18年	丸平商店店舗	木造2階建、瓦葺、 建築面積 99㎡	中央町 4-16	明治初期
7	平成18年	丸平商店土蔵	土蔵造及び石造2階建、 瓦葺、建築面積 60㎡	中央町 4-16	明治初期
8	平成19年	旧三島測候所庁舎	鉄筋コンクリート造2階建、 建築面積 193㎡	東本町 2-5-24	昭和5年
9	令和元年	旧小松宮別邸桜御殿	木造2階建、瓦葺、 建築面積 144㎡	一番町 2682-1	明治25年

第 2 節 未指定文化財の概要

(1) 未指定文化財の件数

市内には指定等文化財以外に未指定の文化財が多数存在しています。令和6年(2024)4月現在、58,306件の未指定文化財を把握しています。

表 3-6 三島市の未指定文化財(令和6年4月現在)

種 別		博物館※ ¹	公共施設※ ²	その他	合計	
有形文化財	建造物	0	7	716	723	
	美術工芸品	絵画	907	73	19	999
		彫刻	128	12	1	141
		工芸品	※ ³ 2,778	7	3	2,788
		書跡	382	18	289	689
		典籍	9,195	17	11	9,223
		古文書	28,012	0	1,029	29,041
		考古資料	364	3,639	30	4,033
		歴史資料	104	351	135	590
無形文化財		0	0	2	2	
民俗文化財	有形の民俗文化財	7,273	0	0	7,273	
	無形の民俗文化財	0	0	36	36	
記念物	遺跡(史跡)	0	2	528	530	
	名勝地(名勝)	0	0	10	10	
	動物・植物・地質鉱物 (天然記念物)	37	3	51	91	
文化的景観		0	0	3	3	
その他	伝承・昔話	0	0	116	116	
	絵葉書・古写真	1,968	50	0	2,018	
計		51,148	4,179	2,979	58,306	

※1 佐野美術館、郷土資料館、三嶋大社宝物館の3博物館

※2 市立図書館、市民文化会館、生涯学習センター、市役所庁舎、市埋蔵文化財保管庫、幼稚園・学校等市の所有する施設

※3 重要美術品として国が認定している2点を含む

(2) 未指定文化財の主な内容

未指定文化財の種別ごとの主な内容は以下のとおりです。

表 3-7 主な未指定文化財

種 別		主な内容
有形 文化財	建造物	<ul style="list-style-type: none"> ・近世の御殿の石垣 ・祇園原用水の隧道 ・不二亭(旧世古本陣茶室、現三嶋大社境内) ・千貫樋(用水路施設) ・旧野戦重砲兵連隊 歩 哨 舎・門跡 ・時の鐘(三石神社隣接) ・看板建築 ・小中島中央水道跡(水道タンク) ・信仰に関する石造物 (庚申塔、道祖神、馬頭観音、秋葉灯笼、唯念名号塔、巡拝塔等) ・道標、顕彰碑、慰霊碑等の石造物
	絵画	<ul style="list-style-type: none"> ・栗原忠二、細井繁誠、下田舜堂、野口三四郎、高梨勝 澁、杉田呑山等、郷土にゆかりのある作家の絵画 ・博物館等が所蔵する浮世絵 ・「小浜丘之図」(畔柳 對水) ・市民文化会館等の公共施設に展示されている絵画
	彫刻	<ul style="list-style-type: none"> ・佐野美術館が所蔵する彫刻 ・公共施設に展示されている彫刻
	工芸品	<ul style="list-style-type: none"> ・「脇指銘相模国住人廣光庚安二年十月日」(国認定重要美術品) ・「太刀 銘 因州住景長」(国認定重要美術品) ・三四呂人形 ・博物館が所蔵する陶磁器、刀剣等の工芸品
	書跡	<ul style="list-style-type: none"> ・白隠・東嶺・玄峰・宋淵 書跡 ・滝の本連水書跡 ・博物館が所蔵する書跡
	典籍	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館所蔵 勝俣文庫 ・郷土資料館所蔵 安久 杉山家旧蔵典籍 ・郷土資料館が所蔵する典籍 ・「雪翁遺草」 ・「雲霧集」(滝の本連水著) ・「吉原呼我点注標記 日本外史」 ・「伊豆地理往来」(明治7年刊)
	古文書	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館が所蔵する古文書 (三嶋問屋場町役場文書、樋口本陣家文書、世古本陣家文書、中郷村役場文書、贅川家文書、中鈴木家文書、安久杉山家文書、安久秋山家文書、大場青木家文書 等) ・三嶋大社関係文書(三嶋大社文書、矢田部家文書、曆師河合家文書、在庁家文書 等) ・旧家・町内会が所蔵する古文書 ・「三嶋宿之古記録」

種 別		主な内容
有形文化財	美術 工芸品	<ul style="list-style-type: none"> ・市内遺跡から出土した石器、土器、木製品、金属器、武具 等 (初音ヶ原遺跡、西大久保遺跡、向山古墳群、夏梅木古墳群、箱根田遺跡、 上才塚遺跡、山中城跡、接待茶屋遺跡 等) ・国分寺瓦 ・藤原顕長 短頸壺
	歴史資料	<ul style="list-style-type: none"> ・三島宿絵図 ・本陣関札、下馬札、下乗札、太政官札(高札)
無形文化財		<ul style="list-style-type: none"> ・農兵節 ・鰻料理(日本遺産「箱根八里」構成文化財)
民俗文化財	有形の 民俗文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館が所蔵する民俗資料 ・紺屋・傘屋・大工・菓子屋等職人の道具 ・農具 ・計量器具等商家の道具 ・食器・衣類・家具等生活の道具 ・ひな人形・かぶと飾り・お札等儀式・祭礼の道具 ・学校生活に関する道具
	無形の 民俗文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・三嶋大社の例祭、三嶋大祭り、各地区のシャギリ ・ヤッサモチ(佐野中最寄の山神社) ・ヨシダサン(佐野地区、裾野市) ・オテンノウサン(梅名、大場、安久、函南町間宮、加茂川町 等) ・市内各所のドンドヤキ(ドンドンヤキ)
記念物	遺跡(史跡)	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地 487ヶ所 ・推定平安・鎌倉古道 ・在庁道 ・城跡(梅縄城跡、谷田城跡、川原ヶ谷城跡、多呂氏居館跡、徳倉城跡) ※埋蔵文化財包蔵地と重複あり
	名勝地(名勝)	<ul style="list-style-type: none"> ・文教町のイチョウ並木の黄葉 ・遺伝学研究所前の桜並木 ・中郷温水池の逆さ富士 ・松毛川三日月湖 ・蜘蛛が淵
	動物・植物・ 地質鉱物 (天然記念物)	<ul style="list-style-type: none"> ・楽寿園内の三島溶岩、鮎返し<small>の</small>滝、溶岩洞穴 ・チュウサギ、ホトケドジョウ、メダカ等絶滅危惧種の動物 ・オトメアオイ、サンショウバラ等絶滅危惧種の植物 ・市内の巨樹・巨木林
文化的景観		<ul style="list-style-type: none"> ・箱根西麓地区の畑作景観 ・源兵衛川をはじめとした湧水河川とカワバタ ・中郷地域の稲作景観
その他	伝承・昔話	<ul style="list-style-type: none"> ・孝行犬、言成地蔵、芝切地蔵、狸のくれた書き物 ・源頼朝関連の伝承
	絵葉書・ 古写真	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地、鉄道、三嶋大社等を撮影した近代の古写真、絵葉書 ・北伊豆震災関連の写真帳、絵葉書 ・野戦重砲兵連隊関連の古写真

第3節 日本遺産「箱根八里」

(1) 日本遺産「箱根八里」の概要

日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。平成30年(2018)に「旅人たちの足跡残る悠久の石畳道一箱根八里で辿る遙かな江戸の旅路一」が三島市、函南町、神奈川県箱根町、神奈川県小田原市にまたがる日本遺産として認定されました。

日本遺産「箱根八里」ストーリーの概要

「天下の険」と歌に唄われた箱根山を東西に越える一筋の道、東海道箱根八里。

江戸時代の大幹線であった箱根八里には、繁華な往来を支えるために当時の日本で随一の壮大な石畳が敷かれました。

西国大名やオランダ商館長、朝鮮通信使や長崎奉行など、歴史に名を残す旅人たちの足跡残る街道をひととき辿れば、宿場町や茶屋、関所や並木、一里塚と、道沿いに次々と往時のままの情景が立ち現われてきて、遙か時代を超え、訪れる者を江戸の旅へと誘います。

(2) 「箱根八里」の構成文化財

日本遺産「箱根八里」の構成文化財のうち、市内に存在するものは以下のとおりです。

表 3-8 日本遺産「箱根八里」構成文化財(三島市分)

構成文化財	指定	備考
かぶといし 甲 石坂	国指定史跡	主に函南町、一部三島市
山中一里塚	国指定史跡	
願合寺地区の石畳	国指定史跡	主に三島市、一部函南町
山中城跡	国指定史跡	三島市と函南町にまたがっているが、三島市が管理団体となっている。
腰巻地区の石畳	国指定史跡	
浅間平地区の石畳	国指定史跡	
富士見平の眺望	未指定	
上長坂地区の石畳	国指定史跡	
笹原地区の石畳	国指定史跡	
笹原一里塚	国指定史跡	
畑作地帯からの眺望	未指定	
普門庵の仏像	未指定	
錦田一里塚	国指定史跡	
箱根旧街道の松並木	国指定史跡	
みしまごよみ みしまごよみし 三嶋暦と三嶋暦師の館	市指定 国登録有形文化財	みしまごよみ 三嶋暦が市指定文化財(典籍)、みしまごよみし 三嶋暦師の館が 国登録有形文化財(建造物)となっている。
三嶋大社	重要文化財	本殿・幣殿・拝殿が重要文化財(建造物)となっている。 その他、境内のキンモクセイが国指定天然記念物、 舞殿等が市指定文化財となっている。三嶋大社宝 物館が複数の指定等文化財を所蔵している。
三島宿の湧水河川	未指定	げんべえがわ 源兵衛川が世界かんがい施設遺産に登録されている。
三石神社の時の鐘	未指定	
うなぎ 鰻 料理	未指定	

第4節 歴史の道百選

(1) 文化庁選定「歴史の道百選」

古くから人、物、情報の交流の舞台となってきた道や水路等は、我が国の文化や歴史を理解する上で極めて重要な意味を持っています。これらの歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道・交通関係遺跡を「歴史の道」として、その保存と活用を広く国民に呼び掛け、顕彰するために、選定したものです。

現在、114件が選定されています。

(2) 三島市域の歴史の道百選

名称：東海道一箱根旧街道・湯坂道・西坂・宇津ノ谷峠越

選定箇所：湯本～箱根関所跡、湯本～元箱根(神奈川県箱根町)、箱根峠～川原ヶ谷(函南町～三島市)、宇津ノ谷(静岡市)～坂下(藤枝市)

概要：

三島市域が含まれるのは、箱根旧街道のうち箱根峠～川原ヶ谷の箇所です。東海道きっての難所とされた箱根越えの道で、小田原から三島までの箱根峠を越える箱根八里には、石畳の道や並木、一里塚が多く残り、国史跡「箱根旧街道」に指定されています。江戸時代にはこの道筋が東海道として整備されました。滑りやすい坂の難所であるため、延宝8年(1680)に石畳道が整備されました。

第5節 文化財の類型ごとの概要

(1) 有形文化財

① 建造物

寺社の境内に指定等文化財を含む多くの文化財が存在しており、「三嶋大社本殿・幣殿及び拝殿(重要文化財)」「三嶋大社舞殿・神門(市指定)」「玉澤妙法華寺庫裡(市指定)」「玉澤妙法華寺中鐘楼(市指定)」「禅叢寺鐘楼門(市指定)」等がこれにあたります。明治時代に小松宮が造営した別邸の跡には「楽寿園内楽寿館(市指定)」「梅御殿(国登録)」「旧小松宮別邸桜御殿(国登録)」が残っています。



三嶋大社本殿・幣殿・拝殿・舞殿



玉澤妙法華寺庫裡



禅叢寺鐘楼門

また、昭和5年(1930)の北伊豆震災からの復興などで市街地に多くつくられた看板建築(「懐古堂ムラカミ屋(国登録)」他)、「旧野戦重砲兵連隊門・歩哨舎(未指定)」等三島の近代に関連する建造物が市街地を中心に残っています。その他、明治初期に建設された「祇園原用水の隧道(未指定)」、中世に農業用水を伊豆から駿河に送る樋として建設され、関東大震災での倒壊後にコンクリート製に造り替えられた「千貫樋(未指定)」、現在は使用されていない簡易水道のタンクである「中央水道跡(未指定)」等、主に近代以降の産業の発展に関する建造物が残っています。



懐古堂ムラカミ屋



旧野戦重砲兵連隊歩哨舎



祇園原用水の隧道の碑

市内には多数の石造物があり、庚申塔こうしん、道祖神、馬頭観音、秋葉灯籠、唯念名号塔ゆいねんみょうこうとう、西国三十三ヶ所等の巡拝塔といった信仰に関わるもの、道標や地域の偉人の顕彰碑、戦没者の慰霊碑等を確認しています。現代ではもともと設置された場所から移され、寺社の境内や公園等特定の場所に様々な石造物が集められる例が多く見られます。また、佐野地区に道祖神

が多く、市街地には秋葉灯籠が多いといった、地域ごとの特徴が見られます。



庚申塔 (光安寺)



道祖神 (右内神社)



馬頭観音 (賀茂川神社)



秋葉灯籠 (中央町)



道標



大村和吉郎顕彰碑

②美術工芸品

ア 絵画・彫刻・工芸品

栗原忠二作「月島の夕(市指定)」「英国風景(未指定)」、細井繁誠作「月と芋畑(市指定)」「三津浜之図(未指定)」、下田舜堂作「朝焼けの富士(市指定)」「^{こはまいけ}小浜池(市指定)」、野口三四郎作「^{みよろ}三四呂人形(市指定、未指定)」といった郷土ゆかりの作家の作品が博物館や公共施設、作者にゆかりのある個人によって所蔵されています。



月島の夕 栗原忠二作



朝焼けの富士 下田舜堂作



水辺興談 (三四呂人形)
野口三四郎作

また、三嶋大社宝物館と佐野美術館は指定等文化財を含む彫刻や刀剣・陶磁器等の工芸品を多数所蔵しており、三嶋大社宝物館の「梅蒔絵手箱(国宝)」や「太刀 銘宗忠(重要文化財)」等の刀剣、佐野美術館の「木造大日如来坐像(重要文化財)」や「薙刀 銘備前国長船住人長光造(国宝)」 「太刀 銘長元」等の刀剣、700点以上の陶磁器等がこれにあたります。これらは三嶋大社に奉納されたものや博物館が寄贈や購入により収集してきた貴重なコレクションです。その他、妙法華寺の「絹本著色日蓮上人像(重要文化財)」 「絹本著色十界勸請大曼荼羅図(絵曼荼羅)(重要文化財)」など、市内の寺社に伝わるものもあります。



梅蒔絵手箱 三嶋大社蔵



木造大日如来坐像
佐野美術館蔵



絹本著色日蓮上人像
妙法華寺蔵



薙刀 銘備前国長船住人長光造
佐野美術館蔵



太刀 銘長元
佐野美術館蔵

イ 書跡・典籍・古文書・歴史資料

主に中世以降の三島の歴史文化を知る上で重要な文化財です。三嶋大社宝物館と郷土資料館に集中していますが、いわゆる旧家や寺社、町内会が持っているものもあります。

中世のもの多くは「三嶋大社矢田部家文書(重要文化財)」を中心に三嶋大社宝物館に所蔵されています。この中には源頼朝、鎌倉北条氏、足利尊氏・直義、小田原北条氏が署名または発給に関わった古文書が含まれており、本市の中世の歴史を知る上でたいへん貴重なものです。

近世のものは博物館の他、旧家や町内会が持っているものがあります。近世の三島は宿場町として栄えたため、宿場町の社会や文化に関わる資料は重要です。「三嶋大社矢田部家文書(重要文化財)」の近世資料や「河合家所蔵 三嶋暦及び同版本並びに関係文書(市指定)」 「樋口家所蔵三嶋宿本陣関係史料(市指定)」 「世古文書(市指定)」 「三島 問屋場・町役場文

書(未指定)」等がこれに当たります。

近代のものとして「花島家資料(市指定)」「中 鈴木家文書(未指定)」「安久^{やすひさ} 杉山家文書(未指定)」「三島^{といやば} 問屋場・町役場文書(未指定)」に含まれる近代資料等を確認しています。



三嶋大社矢田部家文書 矢田部家蔵



三島 問屋場・町役場文書



花島家資料

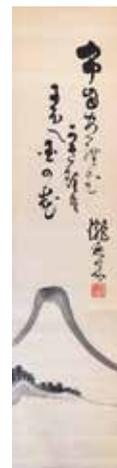
その他、地域の文化人による書画、典籍も多数残されています。主なものに禅僧である白隠や玄峰の書跡、秋山富南^{ふなん}の編さんした「豆州志稿(市指定)」、福井雪水・滝の本連水・箕田寿平^{みたじゅへい}・贅川他石^{にえかわ}ら、近世後期から近代にかけて俳諧や漢学等の文化的な活動で知られる人物による書画や著作物があります。



玄峰書



福井雪水『雪翁遺草』



滝の本連水書画
関守敏氏蔵

ウ 考古資料

大部分は市内遺跡の発掘に伴う出土遺物で市文化財課が所蔵しています。

旧石器時代、縄文時代の遺跡は箱根西麓の丘陵部に多く、狩猟に使われた石器や煮炊き等に使われた縄文土器が出土しています。山中城E遺跡等から出土した石器類(未指定)、観音洞遺跡等から出土した縄文土器(未指定)、観音洞B遺跡出土「吊手土器(市指定)」等があります。

弥生時代から平安時代の遺跡は平野部に多く、弥生土器・土師器・須恵器、木製品や金属器が出土しています。ただし、向山古墳群^{むかいやま}、夏梅木古墳群^{なつめぎ}等の古墳は平野部からやや外れた場所にあり、鉄製の武具等の副葬品が出土しています。弥生時代から平安時代の主なものと

しては、西大久保遺跡から出土した弥生土器や稲作に関連した木製品(未指定)、古代の祭祀に関わる「箱根田遺跡出土祭祀関係遺物(市指定)」、国分寺等古代寺院の瓦類(未指定)、「向山古墳群出土遺物(鉄製品)(市指定)」があります。



槍先型尖頭器 山中城E遺跡 吊手土器 観音洞B遺跡

向山古墳群出土遺物(鉄製品)

中世以降の主なものとしては、山中城跡から出土した鉄砲玉や武具(未指定)、近世山中新田の旅籠跡と思われる場所から出土した陶磁器類(未指定)があります。

この他、青木原遺跡出土の小銅鐸(未指定)やその他の石器・土器・金属器類(県埋蔵文化財センター所蔵)、「西岩崎経塚の経筒残片(未指定)」(東京国立博物館所蔵)等、市外の機関・施設にも本市の歴史を知るうえで重要な考古資料が所蔵されています。加えて、藤原顕長の銘のある短頸壺(未指定)等、少数ですが個人が持っているものもあります。



鉄砲玉 山中城跡



小銅鐸 青木原遺跡
県埋蔵文化財センター蔵



藤原顕長の銘のある短頸壺
個人蔵

(2) 無形文化財

市内には指定等を受けている無形文化財はありませんが、昭和初期に平井源太郎によって広められ、市民にもよく知られた「農兵節(未指定)」踊りは三嶋大祭りや各地区の祭りで盛んに踊られています。

また、日本遺産の構成文化財となっている「鰻料理(未指定)」は富士山からの湧水と職人の技により本市の名物となっており、多数の鰻屋が営業しています。三島の住人は鰻を三嶋大社

の神の使いとして古くから保護していましたが、幕末・維新のときに東海道を通行した薩摩・長州の兵が鰻^{うなぎ}を食べても神罰があたりなかったことから食べられるようになった、といわれています。



農兵に模した平井源太郎



今日の農兵節



鰻料理

(3) 民俗文化財

①有形の民俗文化財

郷土資料館では主に市民からの寄贈により有形の民俗文化財を収集しています。職人の使っていた道具、農業・商業・くらしに関するものなどから構成され、主なものに、職人関連として傘職人・染め物職人・下駄職人・大工の道具類、農業関連として犁、鋤、馬鋤、唐箕、糸車、商業関連としてソロバンや計量器具、くらしに関するものとして木製・陶製の食器、衣類、雑貨、ひな祭り等年中行事に関するもの(以上、未指定)があります。



三島傘



唐箕



貧乏徳利

②無形の民俗文化財

三嶋大社では8月の例祭をはじめ3月の「節分祭」、6月の「茅^ちの輪神事」、11月の「恵比須講祭」「新嘗祭^{にいなめ}」、12月の「除夜祭」等多くの祭事が行われています。そのうち、中世まで起源をさかのぼることができる「三嶋大社のお田打(県指定)」と「三島囃子(県指定)」の2件は指定等文化財として神社の奉仕者や保存会の方々によって传承されています。また、「三^み

しまばやし
島囃子」から派生した各地区の「シャギリ」「子供シャギリ」が三嶋大祭りや各地区の祭りで演奏されています。



三嶋大社のお田打



三島囃子

その他に特徴的な地域信仰に根ざしたものとして「ヤッサモチ (未指定)」「ヨシダサン (未指定)」「オテンノウサン (未指定)」等があります。これらの祭礼には豊作への願いや他の地域から侵入してくる悪疫の退散といった地域の人々の願いが込められています。また、小正月 (現在は1月上旬の土日祝日が多い) に行われる「ドンドヤキ (ドンドンヤキ) (未指定)」は現在でも多くの地区で子供会等が中心になって行われています。



ヤッサモチ



オテンノウサン



ドンドヤキ

(4) 記念物

① 遺跡 (史跡)

「山中城跡 (国指定史跡)」は発掘調査により障子堀などの戦国時代の山城の特徴が明らかになっています。また、「箱根旧街道 (国指定史跡)」では、江戸時代の東海道箱根路に設置されていた松並木や一里塚が現存しており、さらに、発掘調査によって石畳の姿やその機能が明らかになっています。



山中城跡 (発掘の様子)



箱根旧街道石畳
(笹原地区)



箱根旧街道 錦田一里塚

市内には旧石器時代から近世まで、487ヶ所の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)があります。大部分は旧石器時代から古代までの遺跡で、その中には旧石器時代の土坑群が日本で初めて発見された「初音ヶ原遺跡(未指定)」、縄文時代の集落跡の「千枚原遺跡(市指定)」、弥生時代の水田・集落・墓域跡の「西大久保遺跡(未指定)」、「長伏遺跡(未指定)」、ヤマト王権の影響を受けている「向山古墳群(県指定)」、奈良時代の「伊豆国分寺塔跡(国指定)」、古代の国庁に関連すると考えられている「上才塚遺跡(未指定)」等があります。



千枚原遺跡



向山古墳群



長伏遺跡(方形周溝墓)

また、中世の城跡や居館跡(推定地を含む)として、前出「山中城跡」の他、「徳倉城跡」「川原ヶ谷城跡」「谷田城跡」「多呂館跡」(以上、未指定、包蔵地)、「梅縄城跡」(未指定、包蔵地範囲外)が知られています。

その他、中世までの箱根路と考えられる「推定平安・鎌倉古道(未指定、包蔵範囲外)」や中郷地域の有力農民が源頼朝の代わりに在庁奉幣使として三嶋大社へ向かう際に通ったとされる「在庁道(未指定、包蔵範囲外)」等があります。



谷田城跡(石碑)



梅縄城跡(御蔵場稲荷社)



在庁道(間眠神社付近)

②名勝地(名勝)

小浜池を中心とした「楽寿園(国指定天然記念物・名勝)」の他、「楽寿園の紅葉(未指定)」 「文教町のイチヨウ並木の黄葉(未指定)」 「中郷温泉池の逆さ富士(未指定)」などの新三島八景、「遺伝学研究所前の桜並木(未指定)」、狩野川の旧流路で岸に河畔林が残る「松毛川

三日月湖(未指定)」、沢地川上流の滝「蜘蛛が淵(未指定)」といった場所が市民から名勝地として認識されています。



楽寿園小浜池



楽寿園の紅葉



文教町のイチョウ並木の黄葉



中郷温水池の逆さ富士



松毛川三日月湖



蜘蛛が淵

③動物、植物、地質鉱物(天然記念物)

指定等文化財となっているのは植物と地質鉱物に限られます。植物では「三島神社(三嶋大社)のキンモクセイ(国指定)」「神明宮神社 社叢(市指定)」「三嶋大社 社叢(市指定)」「中のかしわ(市指定)」「願成寺クス(市指定)」「矢立の杉(市指定)」が、地質鉱物では富士山からの溶岩流を成因とする「楽寿園(国指定天然記念物・名勝)」「鏡池横臥溶岩樹形(市指定)」「白滝公園溶岩塚(市指定)」が該当します。



三島神社(三嶋大社)のキンモクセイ



白滝公園溶岩塚

その他の動物、植物、地質鉱物については平成13～15年(2001～03)に実施した自然環境基礎調査の中で確認作業が行われています。この調査では希少な動物種としてチュウサギ・オオジシギ・ホトケドジョウ・メダカ等、希少な植物種としてオトメアオイ・サンショウバラ等、貴重な植物群落・個体として龍澤寺、玉澤妙法華寺、楊原神社といった寺社境内、三

島北高校、楽寿園、愛染院跡等にある巨樹・巨木林、地質鉱物として鮎返しの滝等を確認しました。



楊原神社のケヤキ



鮎返しの滝

(5) 文化的景観

市内には文化的景観の選定はありませんが、山の斜面に小区画の耕作地がパッチワーク状に広がる「箱根西麓地区の畑作景観(未指定)」や湧水河川とその生活での利用が見られる「源兵衛川をはじめとした湧水河川とカワバタ(未指定)」、豊かな用水に恵まれた「中郷地域の稲作景観(未指定)」といった景観が見られます。



箱根西麓地区の畑作景観



源兵衛川

(6) その他

① 伝承・昔話

100以上の伝承・昔話を確認しており、その中には「孝行犬」や「言成地蔵」等、現代でもゆかりの場所で定期的に供養祭等が行われているものがあります。また、「間眠神社の松」「妻塚観音」「右内神社の手洗水」等、源頼朝の三嶋大社への百日祈願に関連した伝承も多く残されています。



孝行犬の墓(圓明寺)



言成地蔵堂



妻塚観音堂

②絵葉書・古写真

近代以降、市街地の町並みや三嶋大社、野戦重砲兵連隊、^{ずそう}豆相鉄道や^{すんず}駿豆電気鉄道等の鉄道、^{りおうせし}李王世子別邸(旧小松宮別邸)等を題材とした絵葉書が発行されており、これらによってかつての三島市域の風景を知ることができます。北伊豆震災に際しては絵葉書や復興記念写真帳がつくられ、震災直後や復興後のまちの様子がわかります。また、郷土資料館には野戦重砲兵連隊関連のアルバムが一括で寄贈されており、その活動の様子を写真で知ることができます。



市街地の絵葉書



三島町震災復興記念
写真帳



野戦重砲兵連隊 写真

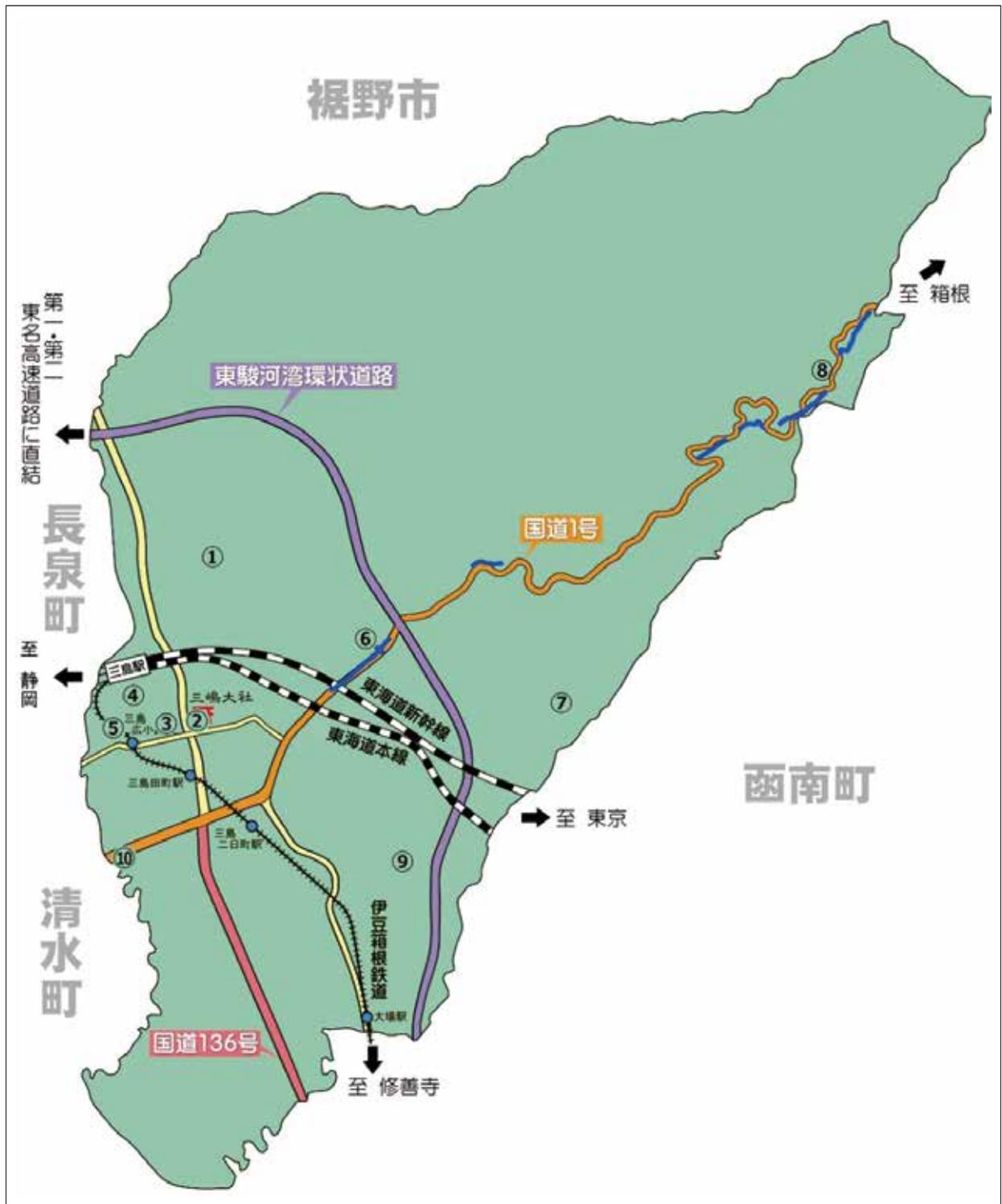


図 3-1 指定文化財のうち建造物、史跡、名勝の所在地

- ①千枚原遺跡(市指定・史跡)
- ②三嶋大社本殿、幣殿及び拝殿(重文・建造物)、舞殿、神門及びそれらに属する彫刻(市指定・建造物)
- ③圓明寺表門(伝樋口本陣表門)(市指定・建造物)
- ④楽寿園(国指定・名勝)、楽寿園内楽寿館(市指定・建造物)
- ⑤伊豆国分寺塔跡(国指定・史跡) ⑥箱根旧街道(青線部分、国指定・史跡)
- ⑦玉澤妙法華寺庫裡、中鐘楼、伽藍 大書院・本堂・祖師堂・奥書院・中門・忠霊殿(市指定・建造物)
- ⑧山中城跡(国指定・史跡) ⑨向山古墳群(県指定・史跡) ⑩禅叢寺鐘楼門(市指定・建造物)

